

目次

- ★ 発生動向総覧 P 1～3
- ★ 感染症発生動向警報システムによる保健所の警報状況 P 3
- ★ 指定届出機関からの特記事項欄コメント P 3～4
- ★ 全数把握感染症集計表 P 5
- ★ 定点把握感染症集計表 P 6～10
- ★ 定点把握感染症推移グラフ P 11～15
- ★ 定点把握感染症集計表（月報） P 16～19
- ★ 定点把握感染症推移グラフ（月報） P 20～21
- ★ 今シーズンのインフルエンザの流行状況 P 22～24
- ★ マダニに咬まれないように注意しましょう（日本紅斑熱の発生） P 25～28
- ★ 新型コロナウイルス感染症の状況 P 29～



発生動向総覧

◆全数届出の感染症

- 1 類感染症 報告なし
- 2 類感染症 結核（熱海（1）、東部（1）、中部（2）、西部（2）、浜松市（3））
- 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症（熱海（2））
- 4 類感染症 E型肝炎（浜松市（1））、デング熱（浜松市（1））、レジオネラ症（浜松市（1））
- 5 類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症（東部（1））、水痘（入院例）（中部（1））、後天性免疫不全症候群（浜松市（1））、梅毒（富士（1））

◆定点把握の対象となる5類感染症（週報対象のもの）

環境衛生科学研究所
感染症情報センター

感染症発生動向調査

令和5年第30週(7/24～7/30)の動向

警報・注意報・流行期入りの目安

警報・注意報のねらいは、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾病について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、都道府県衛生主幹部局や保健所など第一線の衛生行政機関の専門家に向け、データの何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにあります。

ほとんどの感染症では、時間の経過とともに流行が地域的に拡大あるいは移動していくことから、流行拡大を早期に探知するためには、小区域での流行状況を広域的に監視することが重要と考えられます。

「警報レベル」は、大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを示します。

「注意報レベル」は、流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

「警報レベル」は、1週間の定点当たり報告数がある基準値（開始基準値）以上で開始し、別の基準値（終息基準値）未滿で終息します。

「注意報レベル」は1週間の定点当たり報告数がある基準値以上の場合です。警報・注意報レベルの基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、下記の通り定められています。

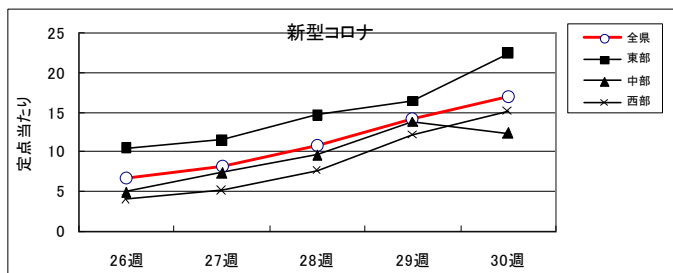
インフルエンザには、「流行期入りの目安」として、「1」があります。

1週間の定点医療機関あたり報告数が1を上回ると、インフルエンザが流行期に入ったと考えられます。ただし、あくまでも目安であり、1週のデータのみで判断するのではなく継続的に推移を確認して判断することが重要です。

疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30.0	10.0	10.0
咽頭結膜熱	3.0	1.0	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	—
感染性胃腸炎	20.0	12.0	—
水痘	2.0	1.0	1.0
手足口病	5.0	2.0	—
伝染性紅斑	2.0	1.0	—
ヘルパンギーナ	6.0	2.0	—
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0

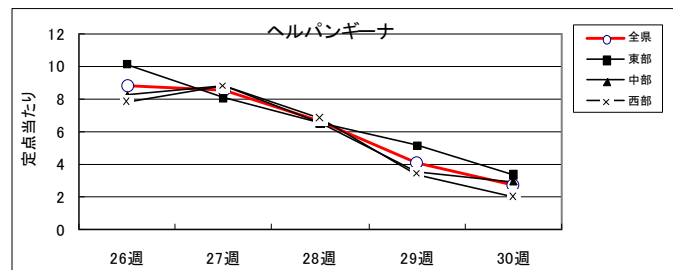
【新型コロナ】

全県で罹患数2,352、定点当たり16.92の患者発生があり、前週の14.19から増加した。定点当たり東部地区で22.48、中部地区で12.36、西部地区で15.09の患者が発生した。



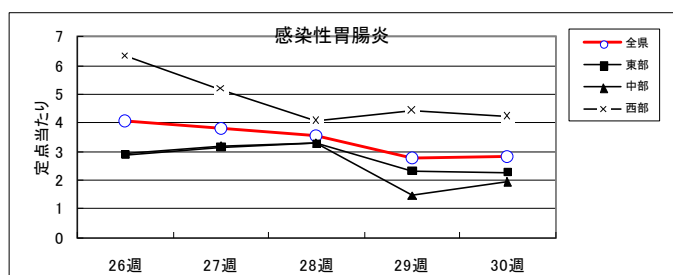
【ヘルパンギーナ】

全県で罹患数246、定点当たり2.76の患者発生があり、前週の4.07から減少した。定点当たり東部地区で3.34、中部地区で2.93、西部地区で2.0の患者が発生した。



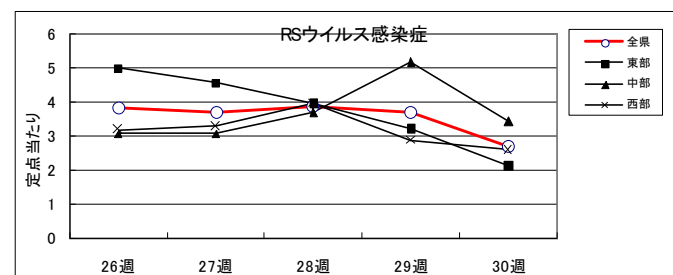
【感染性胃腸炎】

全県で罹患数253、定点当たり2.84の患者発生があり、前週の2.79から僅かながら増加した。定点当たり東部地区で2.28、中部地区で1.96、西部地区で4.23の患者が発生した。



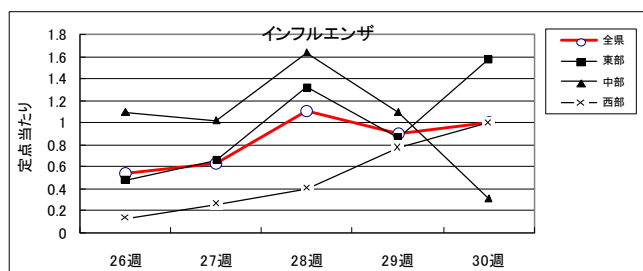
【RSウイルス感染症】

全県で罹患数239、定点当たり2.69の患者発生があり、前週の3.7から減少した。定点当たり東部地区で2.13、中部地区で3.44、西部地区で2.6の患者が発生した。



【インフルエンザ】

全県で罹患数139、定点当たり1.0の患者発生があり、前週の0.9から増加した。定点当たりは、東部地区で1.58、中部地区で0.31、西部地区で1.0の発生があった。

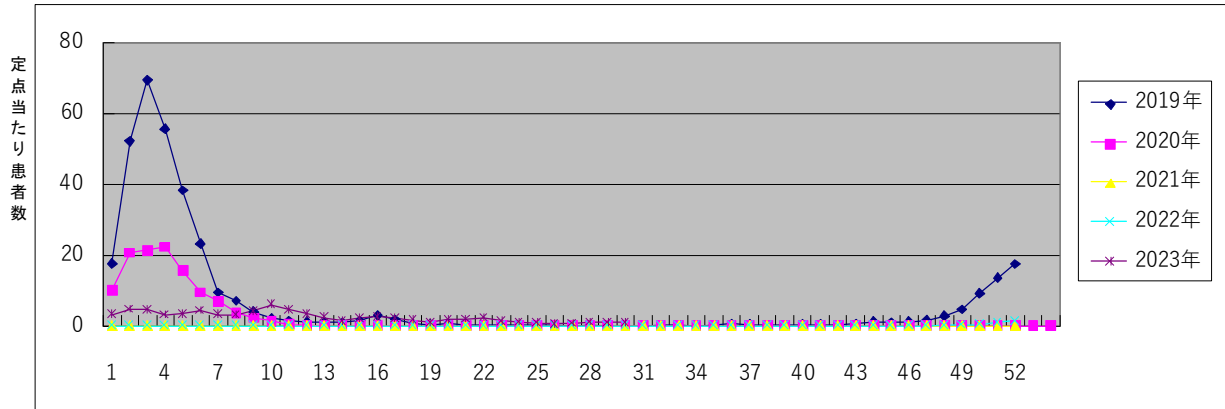


・麻疹、風疹は患者発生なし。

・全国のインフルエンザの発生は1.64で前週の1.59から増加した。警報及び注意報レベルの保健所を有する都道府県は9から8に減少した。

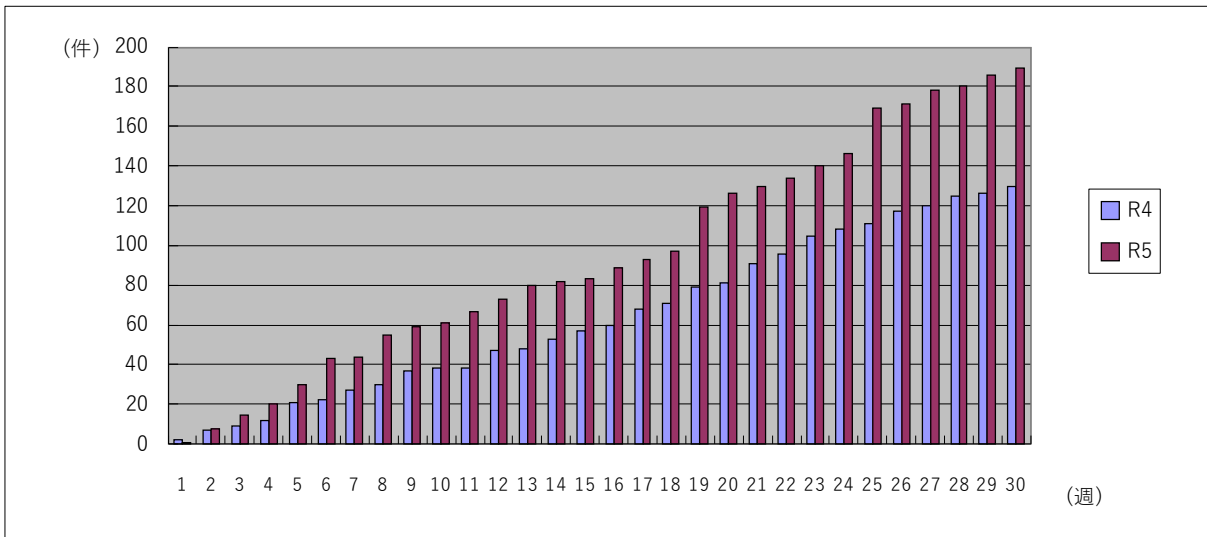
・静岡県において第30週に定点当たり患者報告数の多かった疾病は、順に1)新型コロナ(16.92)、2)感染性胃腸炎(2.84)、3)ヘルパンギーナ(2.76)、4)RSウイルス感染症(2.69)、5)インフルエンザ(1.0)、6)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(0.73)であった。

【インフルエンザ罹患数推移】



【梅毒の発生状況(静岡県・累計)】

・第30週は前年同期比1.45倍の増加となった。



◆感染症発生動向警報システムによる保健所の警報状況

警報 ヘルパンギーナ (御殿場、富士、中部、浜松市)

注意報 なし



指定届出機関からの特記事項欄コメント

感染症第30週 (令和5年7月24日～令和5年7月30日)

高野医院 (伊東市) 「インフルエンザA型 2名、新型コロナ 45名」

よぎ小児科医院 (沼津市) 「新型コロナ 12名、インフルエンザA型 3名」

光ヶ丘小児科 (三島市) 「新型コロナ 16名、RS 9名、インフルエンザA型 2名、ヒトメタニューモ 23名」

クボタ小児科 (三島市) 「ヒトメタニューモ 1名 (2歳女兒)」

白十字小児科医院 (沼津市) 「インフルエンザB型 1名」

函南平出クリニック（函南町）「新型コロナ 34名、インフルエンザA型 5名、ヒトメタニューモ 3名、RS 1名、ヘルパンギーナ 2名、溶連菌 5名」
なかがわ医院（小山町）「インフルエンザA型 1名」
安田内科小児科医院（御殿場市）「ヒトメタニューモ 2名」
たうち小児科医院（御殿場市）「インフルエンザA型 12名、新型コロナ 62名、ヒトメタニューモ 49名」
お八幡医院（御殿場市）「インフルエンザA型 1名」
小川小児科内科医院（富士市）「インフルエンザA型 10名、新型コロナ 101名」
木村内科医院（富士市）「新型コロナ 11名」
共立蒲原総合病院・内科（富士市）「インフルエンザ 3名、新型コロナ 32名」
共立蒲原総合病院・小児科（富士市）「新型コロナ 6名」
幸治小児科医院（富士市）「インフルエンザ 1名、新型コロナ 16名」
聖隷富士病院（富士市）「新型コロナ 36名」
瀬尾小児科内科医院（富士市）「インフルエンザ 4名、新型コロナ 27名」
田子浦クリニック（富士市）「インフルエンザ 8名、新型コロナ 50名」
谷口小児科医院（富士宮市）「新型コロナ 17名」
永松医院（富士市）「新型コロナ 2名」
南陽堂内科循環器科クリニック（富士宮市）「新型コロナ 6名」
平野医院（富士市）「新型コロナ 10名」
富士市立中央病院（富士市）「インフルエンザ 1名、新型コロナ 18名」
富士宮市立病院（富士宮市）「インフルエンザ 1名」
三浦医院（富士宮市）「インフルエンザ 3名、新型コロナ 22名」
ふたばクリニック（磐田市）「インフルエンザA型 2名」
総合病院浜松赤十字病院（小児科）（浜松市）「川崎病（MCLS） 1名（1歳男児）、髄膜炎 1名（6か月未満女児）」
クリニックパパ（浜松市）「ヒトメタニューモ 18名、咽頭アデノ 2名、インフルエンザA型 5名」
今西こどもクリニック（浜松市）「ヒトメタニューモ 2名」
げんきこどもクリニック（浜松市）「インフルエンザA型 1名」
おおば小児科（浜松市）「インフルエンザA型 9名」

※特記事項欄コメントによるインフルエンザウイルス型別状況（R4-R5 シーズン累計）

区分	報告数	割合
インフルエンザA型	4,143名	98%
インフルエンザB型	99名	2%

静岡県感染症週報はホームページでも御覧いただけます。

（「静岡県 感染症情報センター」で検索）

<https://www.pref.shizuoka.jp/kenkofukushi/shippeikansensho/kansensho/1003065/index.html>

疾患名	区分	静岡県							全国				
		25週	26週	27週	28週	29週	今週	年累計	27週	28週	29週	今週	年累計
エボラ出血熱													
クリミア・コンゴ出血熱													
痘そう													
南米出血熱													
ペスト													
マールブルグ病													
ラッサ熱													
急性灰白髄炎													
結核		5	6	9	7	4	9	190	212	212	221	244	7,821
ジフテリア													
重症急性呼吸器症候群(SARS)													
中東呼吸器症候群(MERS)													
鳥インフルエンザH5N1													
鳥インフルエンザH7N9													
コレラ													1
細菌性赤痢									1	3	2		23
腸管出血性大腸菌感染症		1	6	1	2		2	21	132	113	100	131	1,615
腸チフス									1		1	1	24
パラチフス													6
E型肝炎					1		1	3	12	14	7	9	353
ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)													
A型肝炎										1	2		32
エキノкокクス症											1		9
エムポックス								1	1	2	1		185
糞熱													
オウム病									1		1		7
オムスク出血熱													
回帰熱													10
キャサスル森林病													
Q熱													
狂犬病													
コクシジオイデス症													1
ジカウイルス感染症													
重症熱性血小板減少症候群						1		3		4	6	3	97
腎臓慢性出血熱													
西部ウマ脳炎													
ダニ媒介脳炎													
炭疽													
テングニア熱													2
つつが虫病										1		1	108
デング熱							1	1	4	3	5	3	51
東部ウマ脳炎													
鳥インフルエンザ													
ニパウイルス感染症													
日本紅斑熱		2				1		3	12	6	11	8	189
日本脳炎													
ハンタウイルス肺症候群													
Bウイルス病													
鼻疽													
ブルセラ症													1
ベネズエラウマ脳炎													
ヘンドラウイルス感染症													
発しんチフス													
ポツリヌス症													
マラリア													8
野兔病													
ライム病											3	4	15
リッサウイルス感染症													
リフトバレー熱													
類鼻疽													
レジオネラ症			1		1	2	1	33	49	64	55	47	1,220
レプトスピラ症									2	3			8
ロッキー山紅斑熱													
アメーバ赤痢								11	4	3	8	7	281
ウイルス性肝炎(A型肝炎及びE型肝炎を除く)									2	5	1	1	149
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症								13	21	19	21	28	1,027
急性弛緩性麻痺									3	2		1	35
急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎等を除く)				1				14	11	3	8	14	305
クリプトスポリジウム症											1		5
クロイツフェルト・ヤコブ病			1					4	1	1		1	83
劇症型溶血性レンサ球菌感染症						1	1	16	13	11	10	8	482
後天性免疫不全症候群					1			6	10	14	10	11	555
ジアルジア症								2		1	1		27
侵襲性インフルエンザ菌感染症					1			6	6	19	15	10	314
侵襲性髄膜炎菌感染症										1			10
侵襲性肺炎球菌感染症			1					18	18	12	25	20	1,044
水痘(入院例に限る)			1				1	9	1	9	5	7	224
先天性風しん症候群													
梅毒		8	1	5			5	1	200	179	179	194	8,653
播種性クリプトкокクス症								2	3	1	1	1	102
破傷風		1						2	4	3	2	4	58
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1			1			10	1	1	2	2	77
百日咳				1				6	21	26	27	24	534
風しん													9
麻疹			1					2	1				22
薬剤耐性アシネトバクター感染症											1	1	11
新型インフルエンザ等感染症													

※医療機関から届出の追加や取り下げがあった場合、増減することがあります。

※令和5年5月26日から「サル痘」は「エムポックス」に、「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」は「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」に名称が変わりました。

定点把握感染症集計表(届出数)

2023年 30 週

	静岡県							全国				
	25週	26週	27週	28週	29週	今週	計	27週	28週	29週	今週	計
RSウイルス感染症	332	336	328	346	329	239	1,910	10,613	9,882	8,124	7,073	35,692
咽頭結膜熱	32	35	20	35	19	25	166	1,628	1,728	1,596	1,677	6,629
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	68	57	71	62	52	65	375	4,809	4,520	3,567	4,135	17,031
感染性胃腸炎	406	359	342	316	248	253	1,924	12,984	12,195	9,697	10,239	45,115
水痘	5	10	4	5	6	2	32	373	309	345	309	1,336
手足口病	90	82	80	82	71	60	465	3,347	3,780	3,883	4,001	15,011
伝染性紅斑	6		8	6	6	1	27	57	67	68	66	258
突発性発しん	18	30	27	19	13	21	128	874	888	765	786	3,313
ヘルパンギーナ	901	773	760	589	362	246	3,631	22,980	21,443	14,789	13,629	72,841
流行性耳下腺炎	4	1	8	5	3	5	26	219	273	167	177	836
インフルエンザ	110	75	88	154	125	139	691	8,193	8,640	7,847	8,088	32,768
新型コロナウイルス感染症	808	915	1,128	1,497	1,973	2,352	8,673	45,108	54,150	68,601	78,502	246,361
急性出血性結膜炎								7	10	8	8	33
流行性角結膜炎	3	3	11	4	2	2	25	304	296	251	350	1,201
細菌性髄膜炎				1	1		1	4	6	9	8	25
無菌性髄膜炎	2			1		1	3	21	23	18	20	44
マイコプラズマ肺炎	3	1		1	1	2	8	12	12	9	17	50
クラミジア肺炎(オウム病は除く)									1	1		2
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)								1	4	1	4	10

定点種別	県内定点数	届出対象感染症
小児科	89	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
内科	50	インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
眼科	22	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
基幹	10	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病は除く)、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

※小児科定点と内科定点はインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症定点を兼ねている。

※新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日(第19週)から五類感染症(定点把握対象)に追加されました。

定点把握感染症集計表(定点当り)

2023年 30 週

	静岡県						全国			
	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週	今週	第27週	第28週	第29週	今週
RSウイルス感染症	3.73	3.78	3.69	3.89	3.70	2.69	3.38	3.16	2.59	2.25
咽頭結膜熱	0.36	0.39	0.22	0.39	0.21	0.28	0.52	0.55	0.51	0.53
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.76	0.64	0.80	0.70	0.58	0.73	1.53	1.45	1.14	1.32
感染性胃腸炎	4.56	4.03	3.84	3.55	2.79	2.84	4.13	3.90	3.09	3.26
水痘	0.06	0.11	0.04	0.06	0.07	0.02	0.12	0.10	0.11	0.10
手足口病	1.01	0.92	0.90	0.92	0.80	0.67	1.07	1.21	1.24	1.27
伝染性紅斑	0.07		0.01	0.07	0.07	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02
突発性発しん	0.20	0.34	0.30	0.21	0.15	0.24	0.28	0.28	0.24	0.25
ヘルパンギーナ	10.12	8.69	8.54	6.62	4.07	2.76	7.32	6.86	4.71	4.34
流行性耳下腺炎	0.04	0.01	0.09	0.06	0.03	0.06	0.07	0.09	0.05	0.06
インフルエンザ	0.79	0.54	0.63	1.11	0.90	1.00	1.66	1.76	1.59	1.64
新型コロナウイルス感染症	5.81	6.58	8.12	10.77	14.19	16.92	9.14	11.04	13.91	15.91
急性出血性結膜炎							0.01	0.01	0.01	0.01
流行性角結膜炎	0.14	0.14	0.50	0.18	0.09	0.09	0.44	0.43	0.36	0.50
細菌性髄膜炎				0.10	0.10		0.01	0.01	0.02	0.02
無菌性髄膜炎	0.20			0.10		0.10	0.04	0.05	0.04	0.04
マイコプラズマ肺炎	0.30	0.10		0.10	0.10	0.20	0.03	0.03	0.02	0.04
クラミジア肺炎(オウム病は除く)								0.00	0.00	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)							0.00	0.01	0.00	0.01

定点種別	県内定点数	届出対象感染症
小児科	89	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
内科	50	インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
眼科	22	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
基幹	10	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病は除く)、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

※小児科定点と内科定点はインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症定点を兼ねている。

※新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日(第19週)から五類感染症(定点把握対象)に追加されました。

感染症 30 週

保健所名	RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り
総数	239	2.69	25	0.28	65	0.73	253	2.84	2	0.02
賀茂			1	0.50			2	1.00		
熱海	3	0.75	1	0.25	1	0.25	1	0.25	1	0.25
東部	35	2.69	7	0.54	8	0.62	50	3.85		
御殿場	7	1.75			16	4.00	5	1.25		
富士	23	2.56			4	0.44	15	1.67		
静岡市	69	4.31	3	0.19	5	0.31	33	2.06		
中部	24	2.18	4	0.36	11	1.00	20	1.82	1	0.09
西部	41	3.42	6	0.50	8	0.67	26	2.17		
浜松市	37	2.06	3	0.17	12	0.67	101	5.61		

保健所名	手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	週計	定点当り	罹患数	定点当り
総数	60	0.67	1	0.01	21	0.24	246	2.76	5	0.06
賀茂										
熱海	1	0.25					6	1.50	2	0.50
東部	3	0.23			2	0.15	22	1.69		
御殿場	1	0.25					13	3.25	1	0.25
富士	7	0.78			2	0.22	66	7.33		
静岡市	2	0.13			5	0.31	35	2.19		
中部	14	1.27			4	0.36	44	4.00		
西部	8	0.67			4	0.33	21	1.75	1	0.08
浜松市	24	1.33	1	0.06	4	0.22	39	2.17	1	0.06

保健所名	インフルエンザ		新型コロナウイルス感染症		麻しん (全数報告)		風しん (全数報告)		指定届出機関 (定点)数	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	週計	累計	週計	累計	小児科	内科
総数	139	1.00	2,352	16.92	0	2	0	0	89	50
賀茂			74	24.67					2	1
熱海	4	0.67	149	24.83					4	2
東部	27	1.35	274	13.70					13	7
御殿場	14	2.33	273	45.50					4	2
富士	34	2.27	354	23.60					9	6
静岡市	4	0.16	284	11.36					16	9
中部	9	0.53	235	13.82					11	6
西部	15	0.79	357	18.79		1			12	7
浜松市	32	1.14	352	12.57		1			18	10

*新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日(第19週)から五類(定点把握対象)に追加されました。

感染症 30 週

保健所名	急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り
総数	0		2	0.09	0		1	0.10	2	0.20
賀茂										
熱海									1	1.00
東部										
御殿場										
富士							1	1.00		
静岡市										
中部			1	0.33						
西部			1	0.25						
浜松市									1	0.50

保健所名	クラミジア肺炎(オウム病は除く)		感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り
総数	0		0	
賀茂				
熱海				
東部				
御殿場				
富士				
静岡市				
中部				
西部				
浜松市				

指定届出機関 (定点)数	
眼科	基幹
22	10
	1
	1
4	1
3	1
5	2
3	1
4	1
3	2

*賀茂・熱海・御殿場の各保健所管内には眼科定点はありません。

*御殿場保健所管内には基幹定点はありません。

定点把握感染症年齢階級別集計表(届出数)

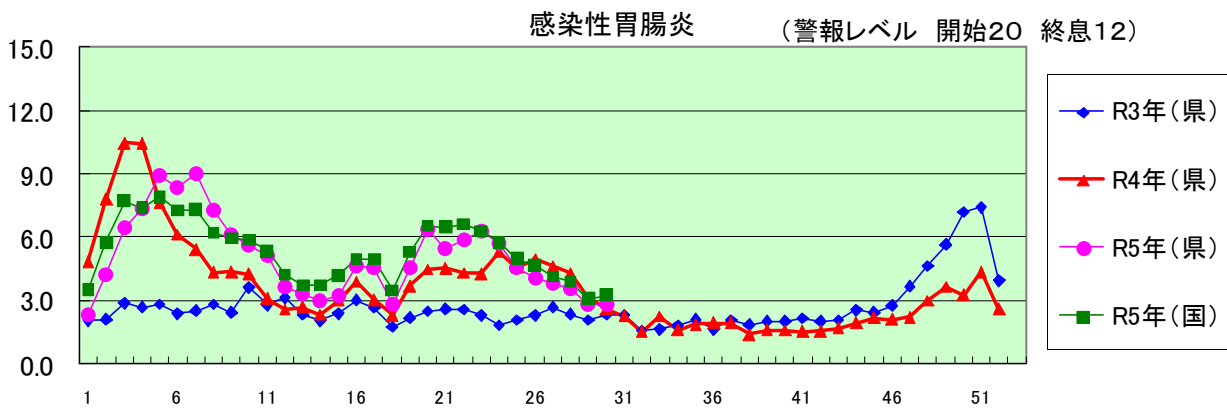
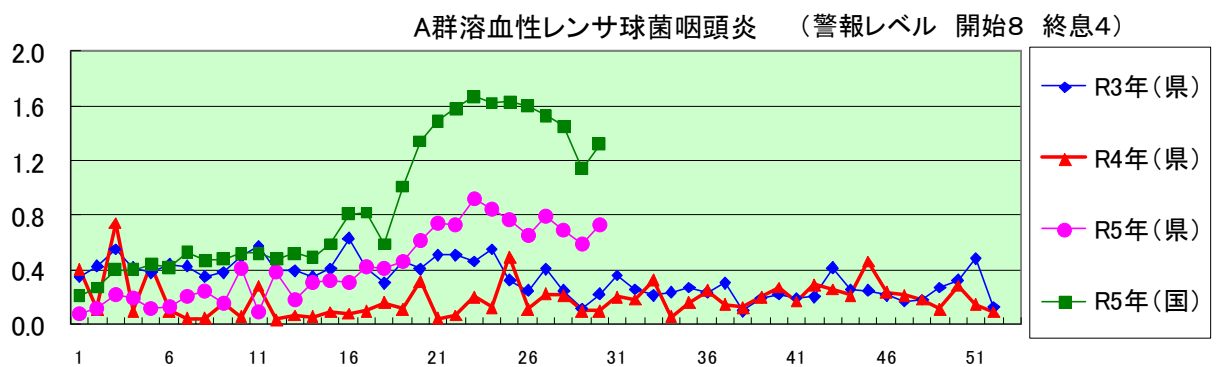
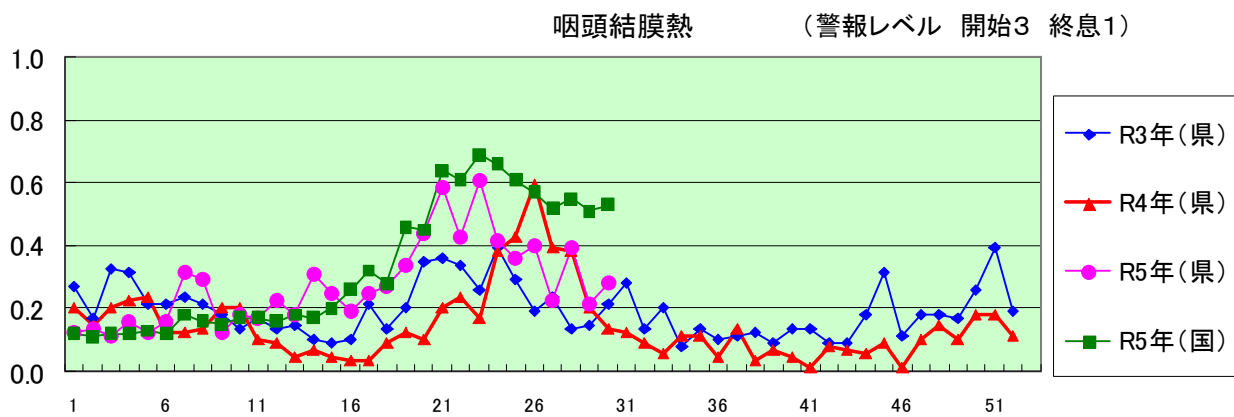
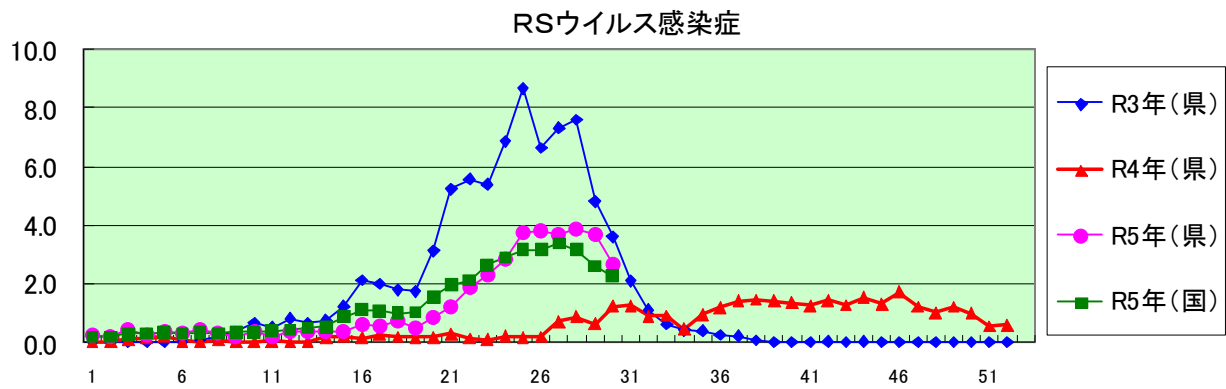
2023年 30 週

年齢階級区分	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
〃(小児科定点把握感染症分)	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上							
〃(眼科定点把握感染症分)	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上		
〃(基幹定点把握分)	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上					
RSウイルス感染症	34	36	66	48	29	13	7	1	5												239
咽頭結膜炎		2	3	2	9	4	2	1		1	1										25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	1	2	3	12	4	4	9	6	9	4	8	1	1							65
感染性胃腸炎	3	22	36	47	22	21	25	17	10	14	6	18	4	8							253
水痘	1										1										2
手足口病		1	13	10	10	11	7	4	3		1										60
伝染性紅斑						1															1
突発性発しん		8	11	1			1														21
ヘルパンギーナ	2	12	53	50	35	32	33	7	6	5		9		2							246
流行性耳下腺炎							1		2		2										5
インフルエンザ		1	12	5	4	4	11	9	13	10	7	21	11	1	8	11	4	2	3	2	139
新型コロナウイルス感染症	15	32	52	36	27	34	38	43	46	46	55	263	132	209	230	308	313	190	139	144	2,352
急性出血性結膜炎																					
流行性角結膜炎														1					1		2
細菌性髄膜炎																					
無菌性髄膜炎							1														1
マイコプラズマ肺炎		1	1																		2
クラミジア肺炎(オウム病は除く)																					
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに属する。)																					

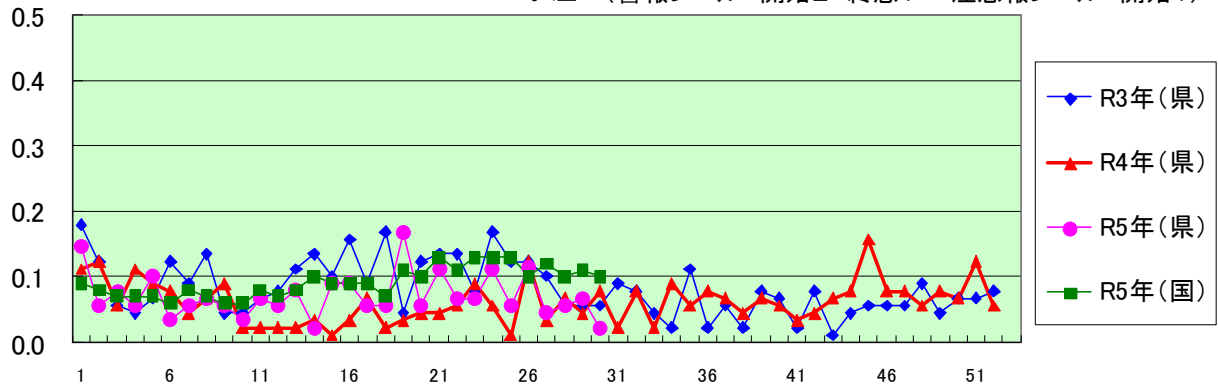
定点把握感染症年齢階級別集計表(定点当り)

2023年 30 週

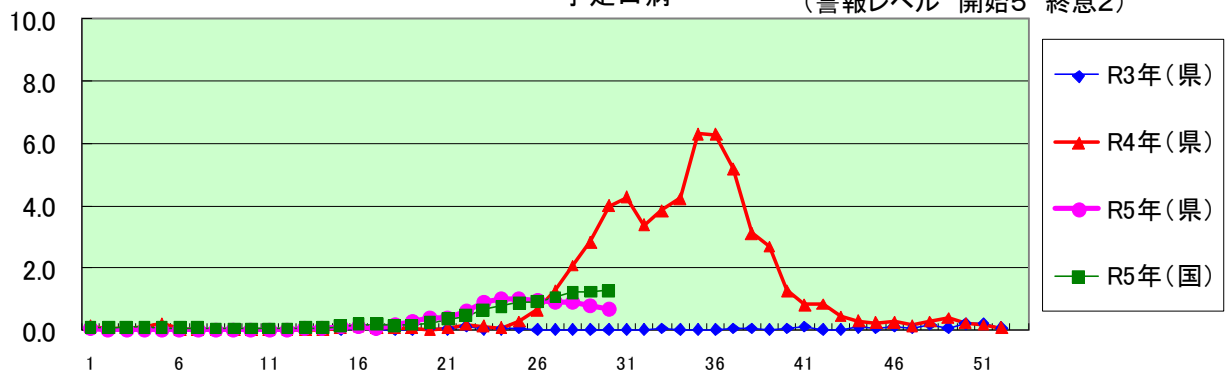
年齢階級区分	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
〃(小児科定点把握感染症分)	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上							
〃(眼科定点把握感染症分)	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上		
〃(基幹定点把握分)	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上					
RSウイルス感染症	0.38	0.40	0.74	0.54	0.33	0.15	0.08	0.01	0.06												2.69
咽頭結膜炎		0.02	0.03	0.02	0.10	0.04	0.02	0.01		0.01	0.01										0.28
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.01	0.01	0.02	0.03	0.13	0.04	0.04	0.10	0.07	0.10	0.04	0.09	0.01	0.01							0.73
感染性胃腸炎	0.03	0.25	0.40	0.53	0.25	0.24	0.28	0.19	0.11	0.16	0.07	0.20	0.04	0.09							2.84
水痘	0.01										0.01										0.02
手足口病		0.01	0.15	0.11	0.11	0.12	0.08	0.04	0.03		0.01										0.67
伝染性紅斑						0.01															0.01
突発性発しん		0.09	0.12	0.01			0.01														0.24
ヘルパンギーナ	0.02	0.13	0.60	0.56	0.39	0.36	0.37	0.08	0.07	0.06		0.10		0.02							2.76
流行性耳下腺炎							0.01		0.02		0.02										0.06
インフルエンザ		0.01	0.09	0.04	0.03	0.03	0.08	0.06	0.09	0.07	0.05	0.15	0.08	0.01	0.06	0.08	0.03	0.01	0.02	0.01	1.00
新型コロナウイルス感染症	0.11	0.23	0.37	0.26	0.19	0.24	0.27	0.31	0.33	0.33	0.40	1.89	0.95	1.50	1.65	2.22	2.25	1.37	1.00	1.04	16.92
急性出血性結膜炎																					
流行性角結膜炎														0.05					0.05		0.09
細菌性髄膜炎																					
無菌性髄膜炎							0.10														0.10
マイコプラズマ肺炎		0.10	0.10																		0.20
クラミジア肺炎(オウム病は除く)																					
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに属する。)																					



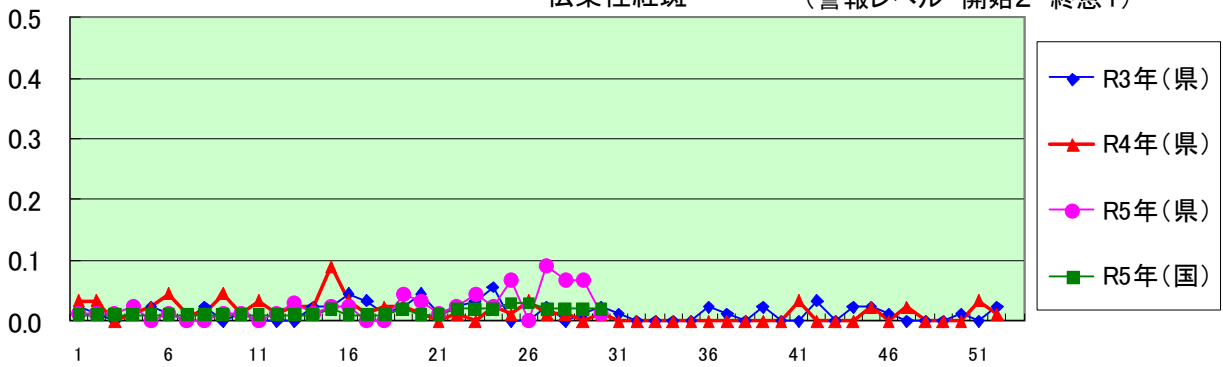
水痘 (警報レベル 開始2 終息1 注意報レベル 開始1)



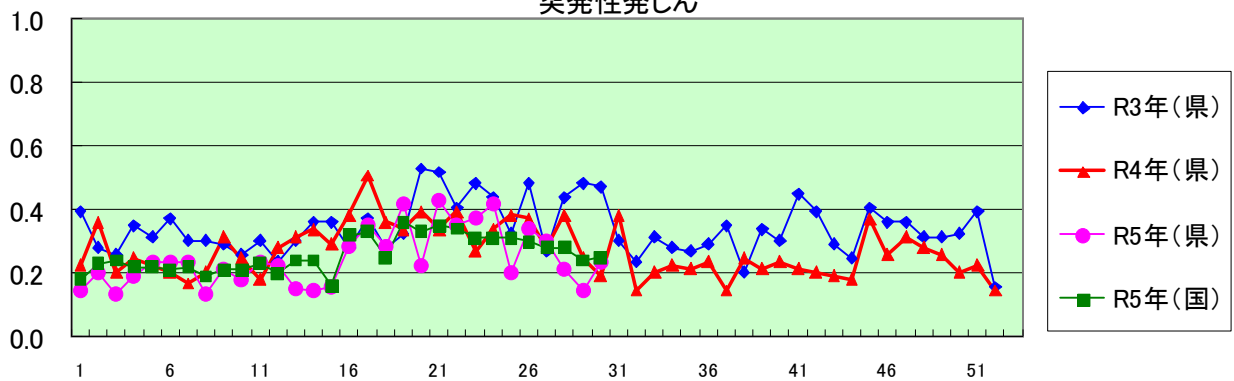
手足口病 (警報レベル 開始5 終息2)

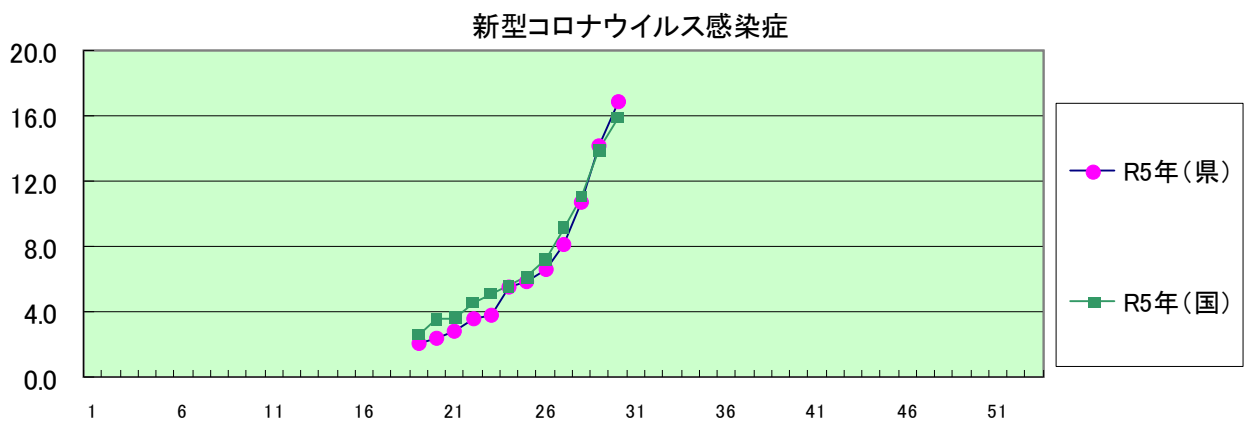
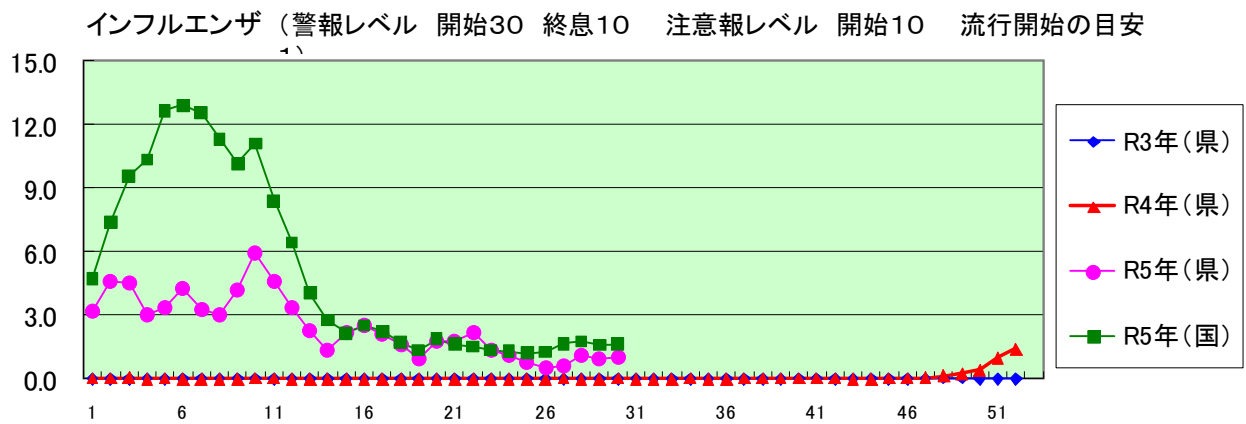
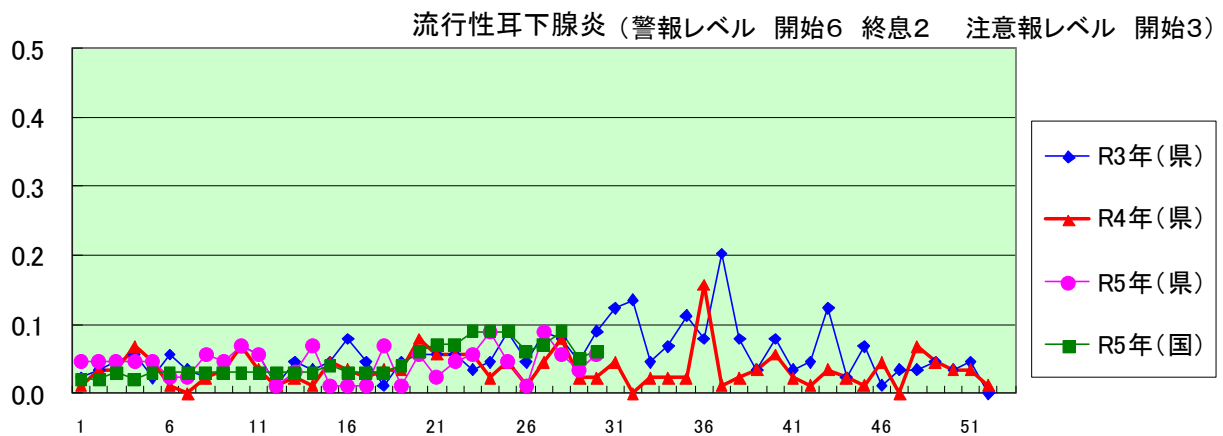
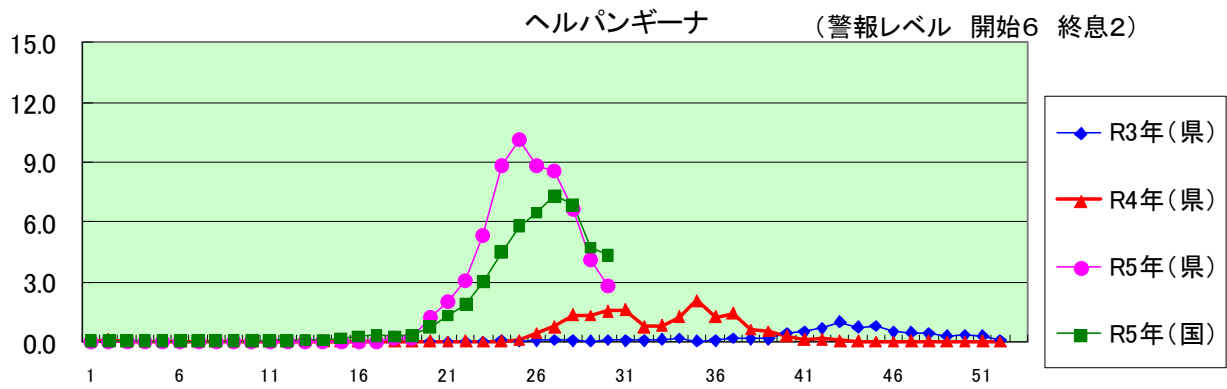


伝染性紅斑 (警報レベル 開始2 終息1)

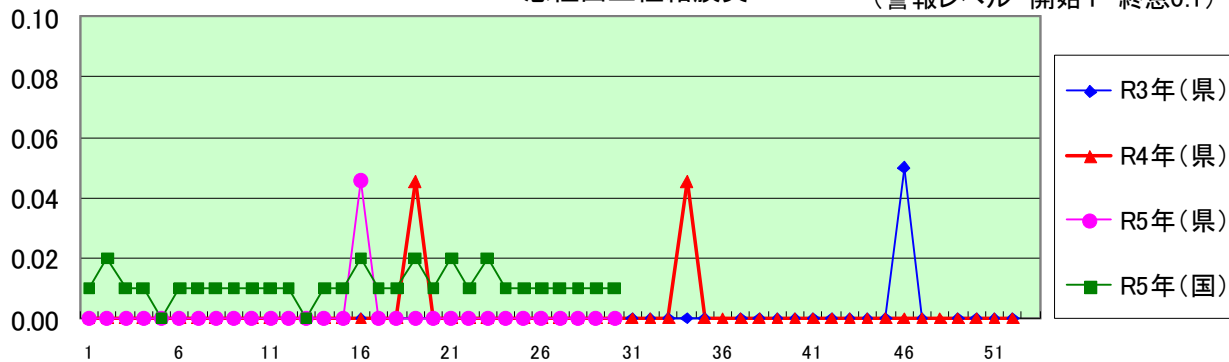


突発性発しん

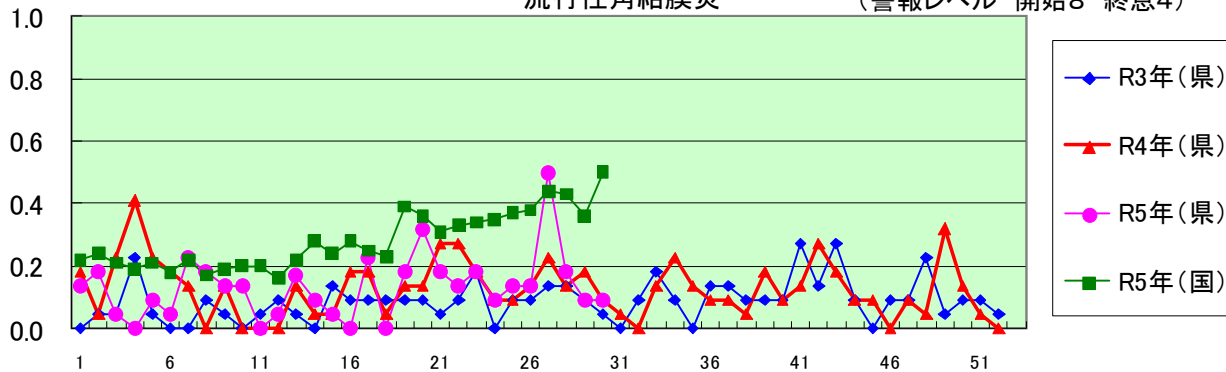




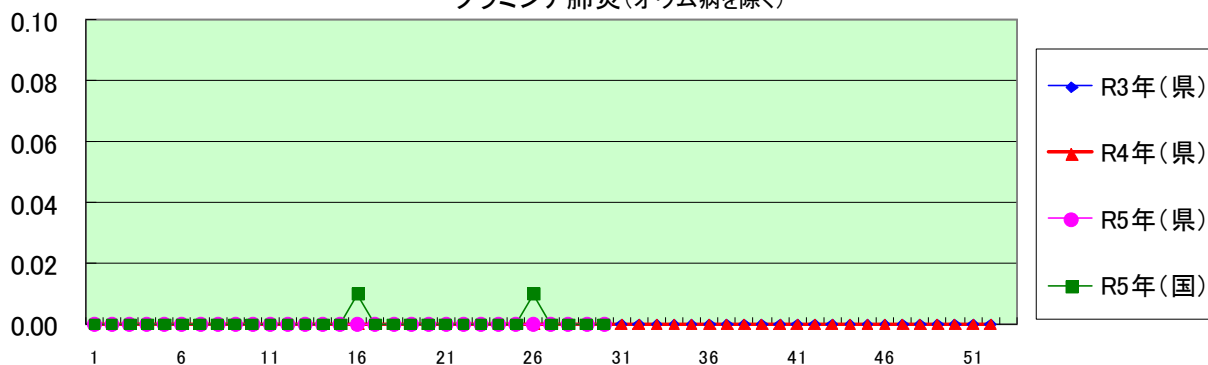
急性出血性結膜炎 (警報レベル 開始1 終息0.1)



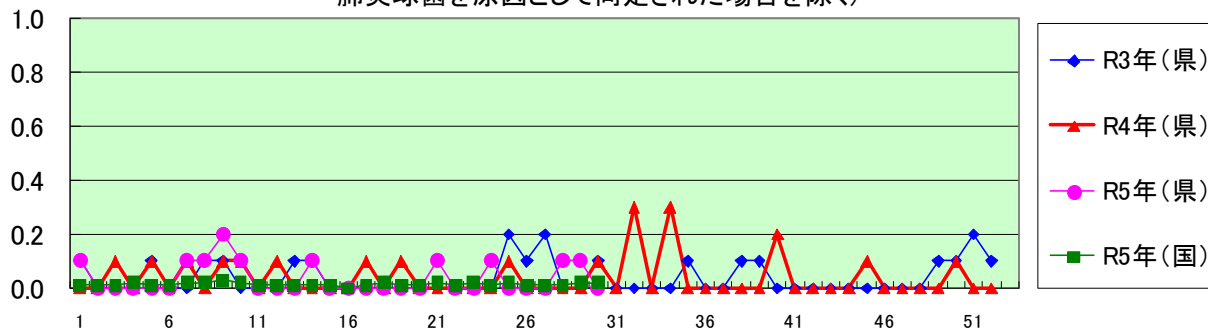
流行性角結膜炎 (警報レベル 開始8 終息4)

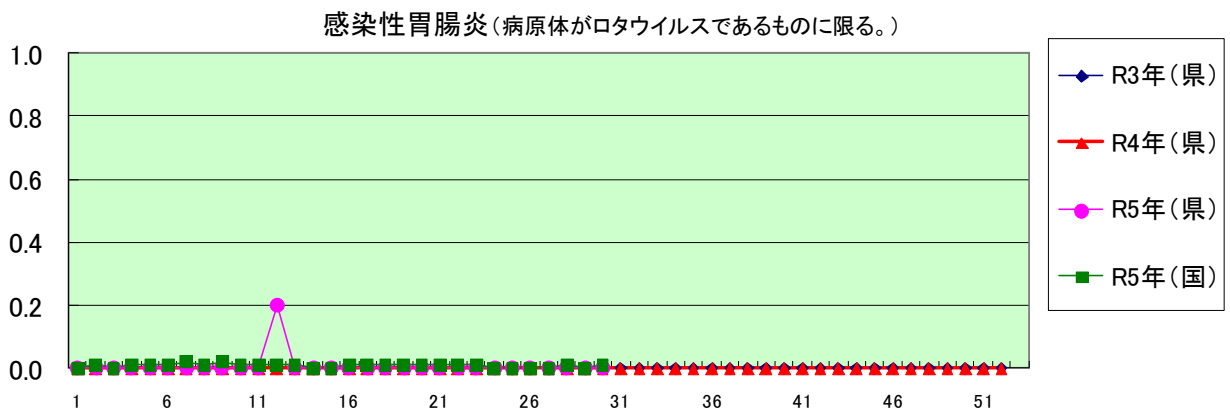
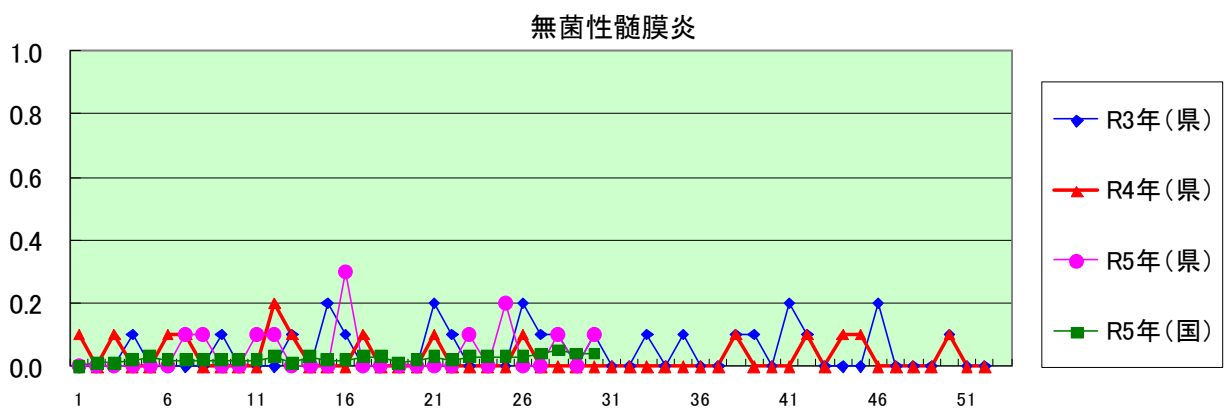
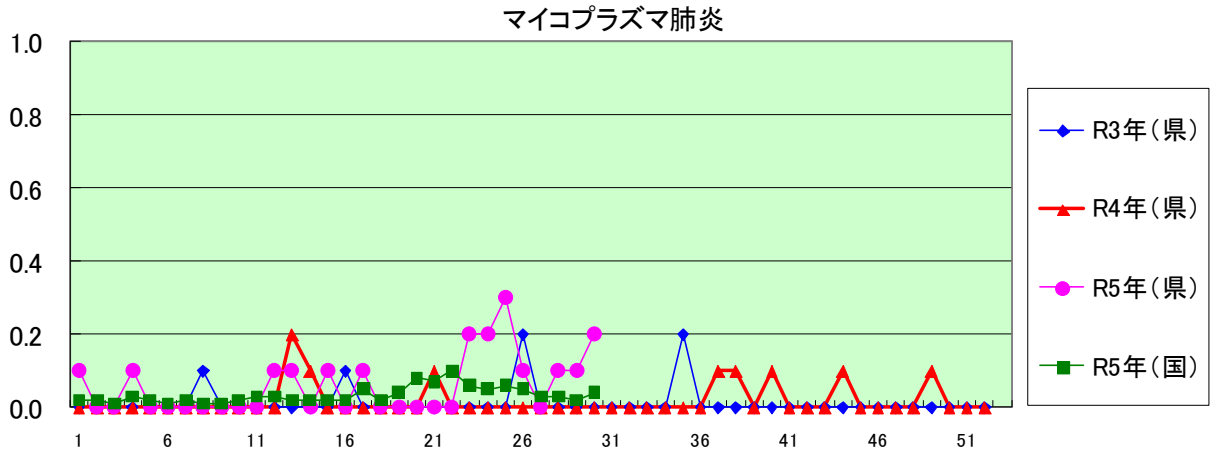


クラミジア肺炎(オウム病を除く)



細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)





定点種別	県内定点数	届出対象感染症
小児科	89	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
内科	50	インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
眼科	22	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
基幹	10	クラミジア肺炎(オウム病を除く)、細菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

定点把握感染症(月報)集計表(届出数)

2023年 6 月

	静岡県							全国				
	1月	2月	3月	4月	5月	今月	計	3月	4月	5月	今月	計
性器クラミジア感染症	49	47	42	43	44	65	290	2,603	2,512	2,708	2,871	10,694
性器ヘルペスウイルス感染症	11	10	14	18	15	21	89	818	758	798	835	3,209
尖圭コンジローマ	10	12	12	20	12	6	72	577	562	610	610	2,359
淋菌感染症	18	11	20	8	13	25	95	857	773	831	775	3,236
性器クラミジア感染症(男)	16	19	12	13	13	25	98	1,330	1,302	1,410	1,408	5,450
性器クラミジア感染症(女)	33	28	30	30	31	40	192	1,273	1,210	1,298	1,463	5,244
性器ヘルペスウイルス感染症(男)	4	1	2	7	5	9	28	315	293	317	325	1,250
性器ヘルペスウイルス感染症(女)	7	9	12	11	10	12	61	503	465	481	510	1,959
尖圭コンジローマ(男)	6	9	1	8	3	1	28	372	379	410	403	1,564
尖圭コンジローマ(女)	4	3	11	12	9	5	44	205	183	200	207	795
淋菌感染症(男)	13	8	12	7	10	15	65	653	585	620	569	2,427
淋菌感染症(女)	5	3	8	1	3	10	30	204	188	211	206	809
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	13	18	18	25	25	23	122	1,207	1,012	1,210	1,213	4,642
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症								61	57	116	95	329
薬剤耐性緑膿菌感染症								8	4	8	11	31

定点種別	県内定点数	届出対象感染症
性感染症	30	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖形コンジローマ、淋菌感染症
基幹	10	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症

定点把握感染症(月報)集計表(定点当り)

2023年 6 月

	静岡県						全国			
	1月	2月	3月	4月	5月	今月	3月	4月	5月	今月
性器クラミジア感染症	1.63	1.57	1.40	1.43	1.47	2.17	2.66	2.57	2.76	2.91
性器ヘルペスウイルス感染症	0.37	0.33	0.47	0.60	0.50	0.70	0.84	0.78	0.81	0.85
尖圭コンジローマ	0.33	0.40	0.40	0.67	0.40	0.20	0.59	0.58	0.62	0.62
淋菌感染症	0.60	0.37	0.67	0.27	0.43	0.83	0.88	0.79	0.85	0.79
性器クラミジア感染症(男)	0.53	0.63	0.40	0.43	0.43	0.83	1.36	1.33	1.44	1.43
性器クラミジア感染症(女)	1.10	0.93	1.00	1.00	1.03	1.33	1.30	1.24	1.32	1.48
性器ヘルペスウイルス感染症(男)	0.13	0.03	0.07	0.23	0.17	0.30	0.32	0.30	0.32	0.33
性器ヘルペスウイルス感染症(女)	0.23	0.30	0.40	0.37	0.33	0.40	0.51	0.48	0.49	0.52
尖圭コンジローマ(男)	0.20	0.30	0.03	0.27	0.10	0.03	0.38	0.39	0.42	0.41
尖圭コンジローマ(女)	0.13	0.10	0.37	0.40	0.30	0.17	0.21	0.19	0.20	0.21
淋菌感染症(男)	0.43	0.27	0.40	0.37	0.33	0.50	0.67	0.60	0.63	0.58
淋菌感染症(女)	0.17	0.10	0.27	0.03	0.10	0.33	0.21	0.19	0.22	0.21
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1.30	1.80	1.80	2.50	2.50	2.30	2.55	2.14	2.54	2.55
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症							0.13	0.12	0.24	0.20
薬剤耐性緑膿菌感染症							0.02	0.01	0.02	0.02

定点種別	県内定点数	届出対象感染症
性感染症	30	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症
基幹	10	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症

2023年 6 月

保健所名	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り
総数	65	2.17	21	0.70	6	0.20	25	0.83
賀茂								
熱海	3	3.00	3	3.00				
東部	8	1.60	1	0.20			1	0.20
御殿場								
富士	15	5.00	6	2.00			11	3.67
静岡市	14	2.33	5	0.83	5	0.83	6	1.00
中部	6	1.50	5	1.25			1	0.25
西部	15	3.00	1	0.20			3	0.60
浜松市	4	0.80			1	0.20	3	0.60

保健所名	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り
総数	23	2.30	0		0	
賀茂	3	3.00				
熱海	1	1.00				
東部						
御殿場						
富士	2	2.00				
静岡市	13	6.50				
中部	2	2.00				
西部	1	1.00				
浜松市	1	0.50				

保健所名	定点(指定届出機関)数	
	性感染症	基幹
総数	30	10
賀茂		1
熱海	1	1
東部	5	1
御殿場	1	
富士	3	1
静岡市	6	2
中部	4	1
西部	5	1
浜松市	5	2

* 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成26年9月19日から全数把握の対象となりました。

定点把握感染症(月報)年齢階級別集計表(届出数)

2023年 6 月

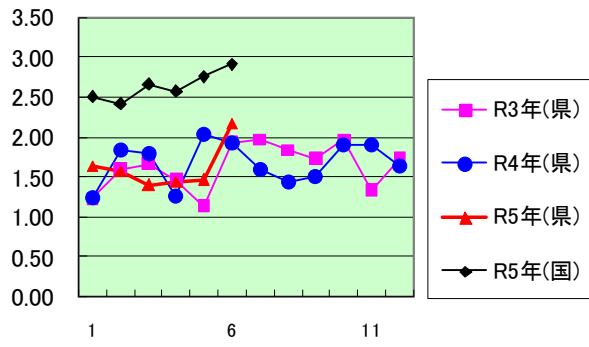
年齢階級区分	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症					3	16	19	6	5	6	8	1	1				65
性器ヘルペスウイルス感染症					1	3		8		4	1	1	1			2	21
尖圭コンジローマ						3		1			1	1					6
淋菌感染症					2	3	4	3	4	2	1	4		2			25
性器クラミジア感染症(男)						4	4	2	2	5	7		1				25
性器クラミジア感染症(女)					3	12	15	4	3	1	1	1					40
性器ヘルペスウイルス感染症(男)						1		3		3			1			1	9
性器ヘルペスウイルス感染症(女)					1	2		5		1	1	1				1	12
尖圭コンジローマ(男)											1						1
尖圭コンジローマ(女)						3		1				1					5
淋菌感染症(男)						1	1	2	3	2	1	3		2			15
淋菌感染症(女)					2	2	3	1	1			1					10
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症				1					1		1	2			1	17	23
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症																	
薬剤耐性緑膿菌感染症																	

定点把握感染症(月報)年齢階級別集計表(定点当り)

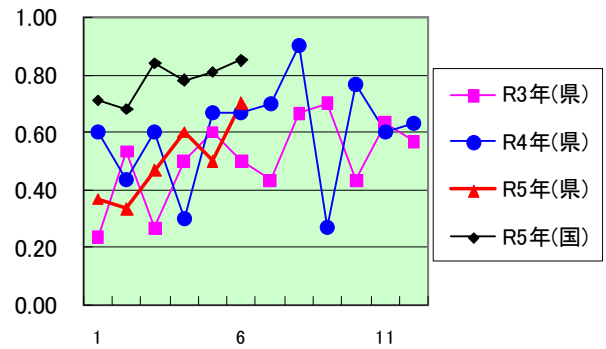
2023年 6 月

年齢階級区分	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症					0.10	0.53	0.63	0.20	0.17	0.20	0.27	0.03	0.03				2.17
性器ヘルペスウイルス感染症					0.03	0.10		0.27		0.13	0.03	0.03	0.03			0.07	0.70
尖圭コンジローマ						0.10		0.03			0.03	0.03					0.20
淋菌感染症					0.07	0.10	0.13	0.10	0.13	0.07	0.03	0.13		0.07			0.83
性器クラミジア感染症(男)						0.13	0.13	0.07	0.07	0.17	0.23		0.03				0.83
性器クラミジア感染症(女)					0.10	0.40	0.50	0.13	0.10	0.03	0.03	0.03					1.33
性器ヘルペスウイルス感染症(男)						0.03		0.10		0.10			0.03			0.03	0.30
性器ヘルペスウイルス感染症(女)					0.03	0.07		0.17		0.03	0.03	0.03				0.03	0.40
尖圭コンジローマ(男)											0.03						0.03
尖圭コンジローマ(女)						0.10		0.03				0.03					0.17
淋菌感染症(男)						0.03	0.03	0.07	0.10	0.07	0.03	0.10		0.07			0.50
淋菌感染症(女)					0.07	0.07	0.10	0.03	0.03			0.03					0.33
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症				0.10					0.10		0.10	0.20			0.10	1.70	2.30
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症																	
薬剤耐性緑膿菌感染症																	

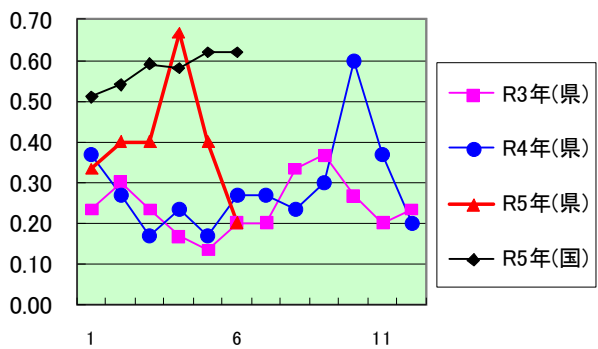
性器クラミジア感染症



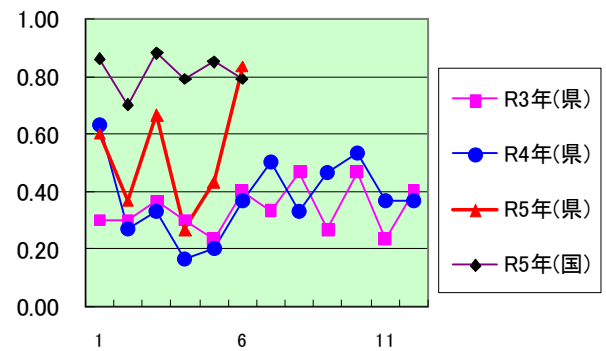
性器ヘルペスウイルス感染症



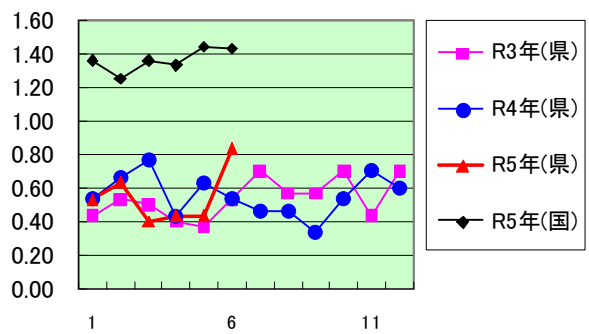
尖圭コンジローマ



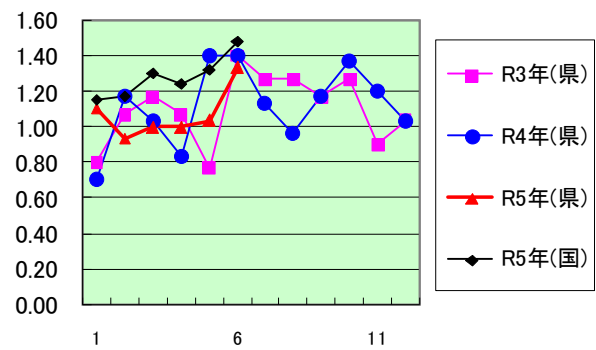
淋菌感染症



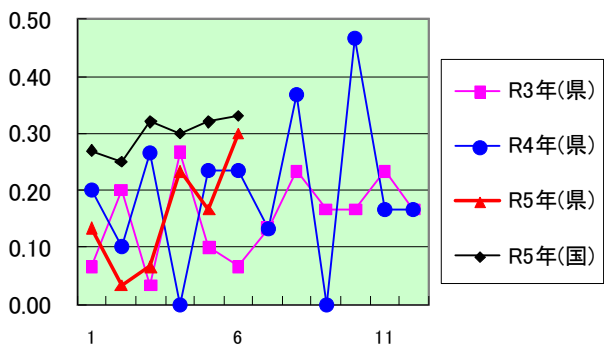
性器クラミジア感染症(男)



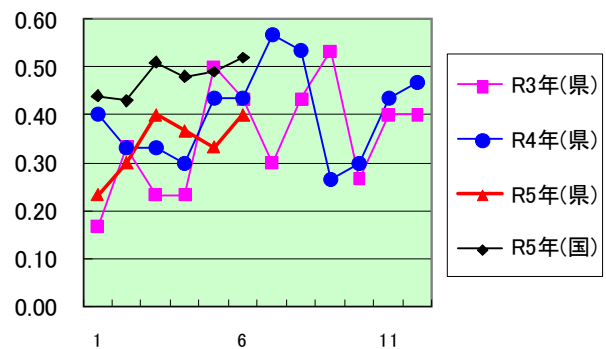
性器クラミジア感染症(女)



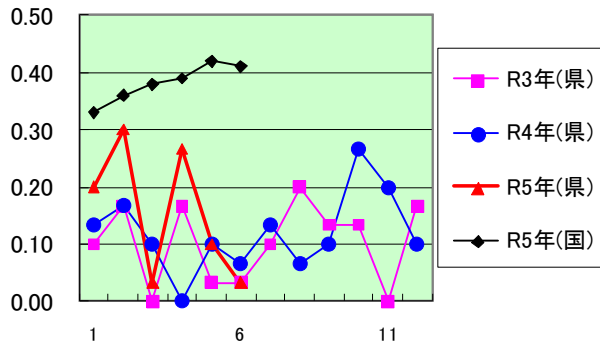
性器ヘルペスウイルス感染症(男)



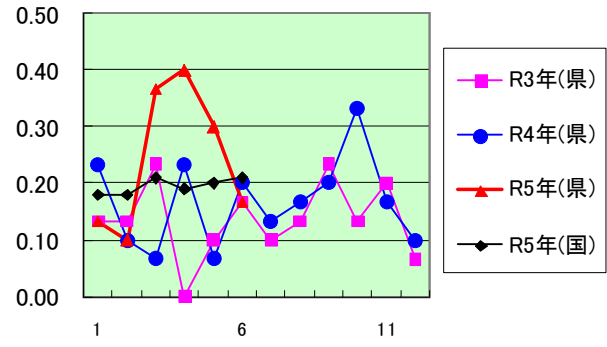
性器ヘルペスウイルス感染症(女)



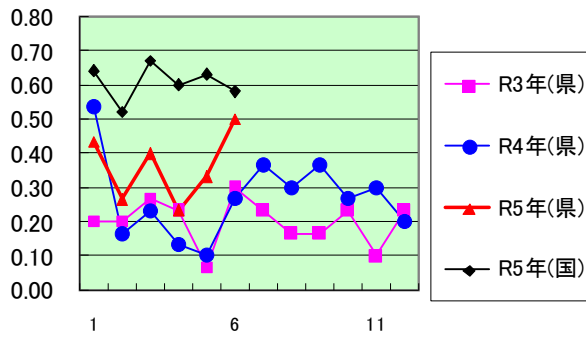
尖圭コンジローマ(男)



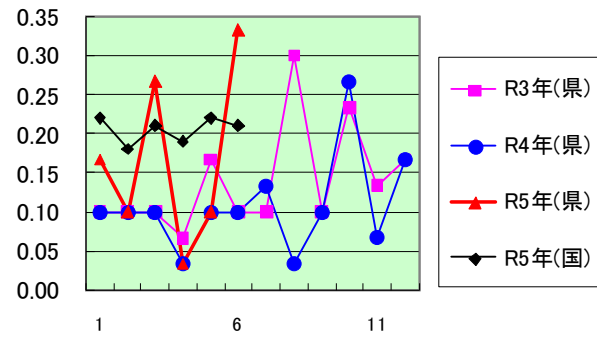
尖圭コンジローマ(女)



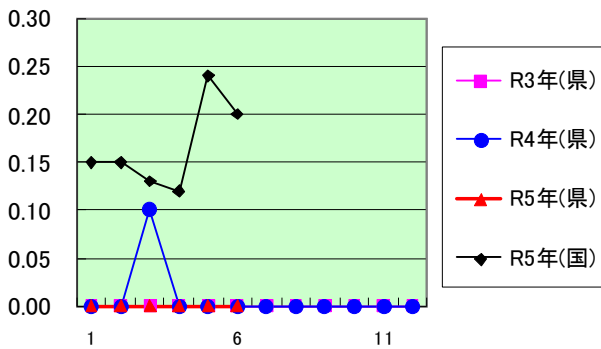
淋菌感染症(男)



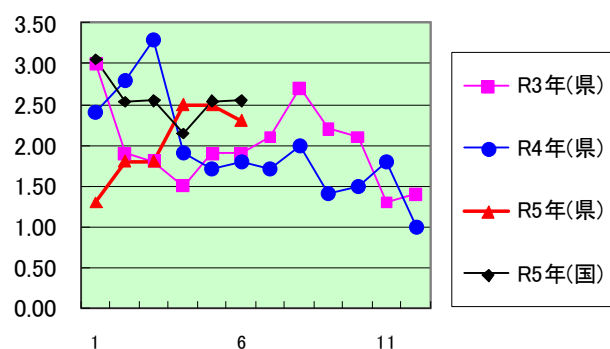
淋菌感染症(女)



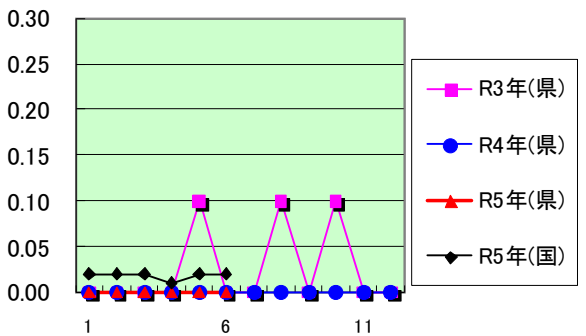
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症



メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

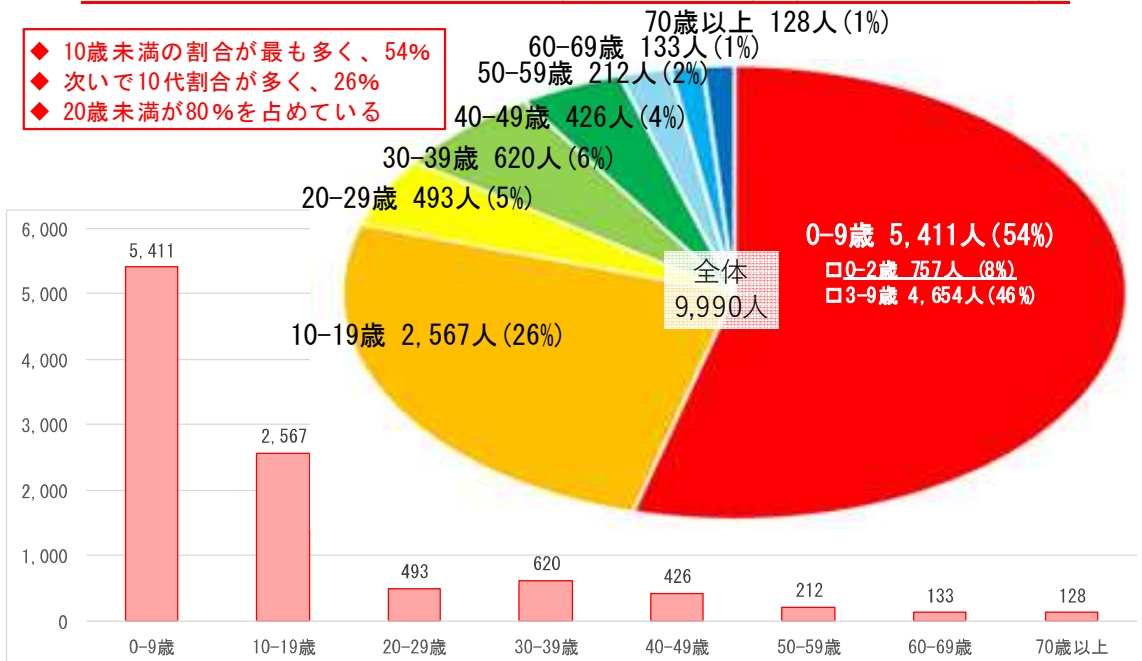


薬剤耐性緑膿菌感染症

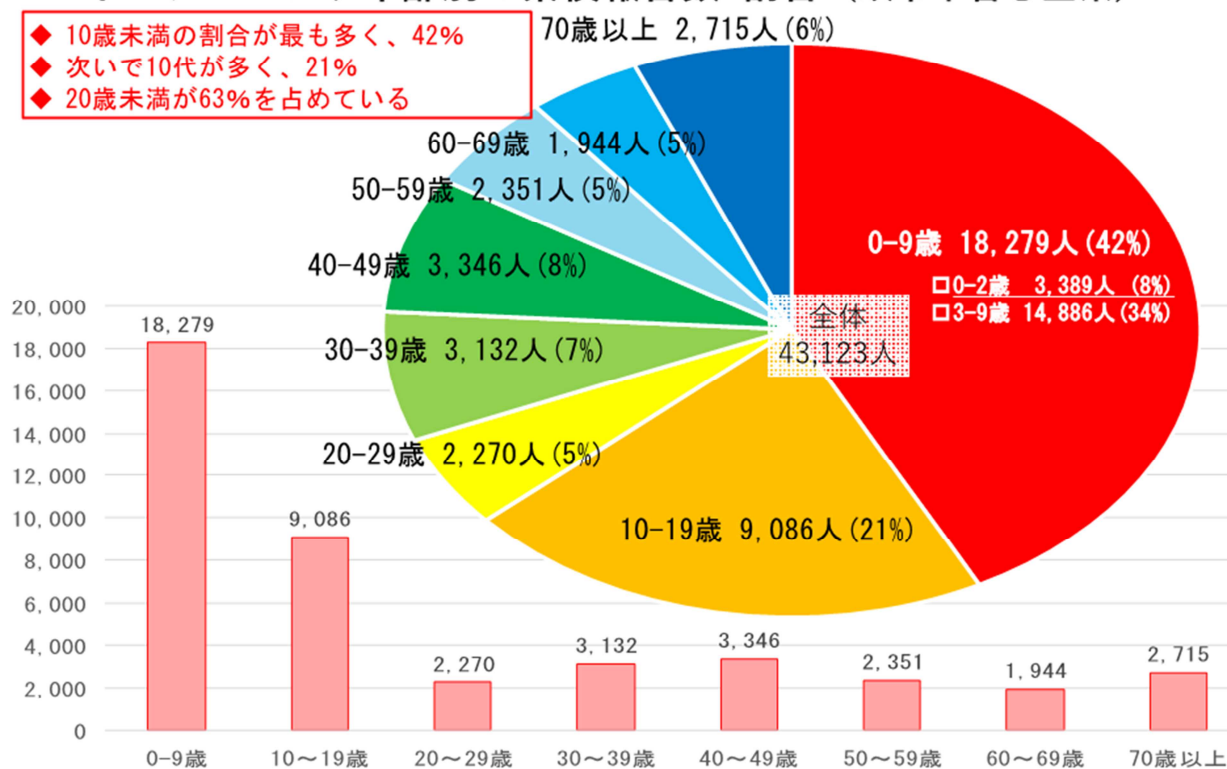


定点種別	県内定点数	届出対象感染症
性感染症	30	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症
基幹	10	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症

**静岡県の2022-2023シーズン
インフルエンザ年齢別の累積報告数・割合**
2022年第51週～2023年第24週(12/19-6/18) (政令市含む全県)

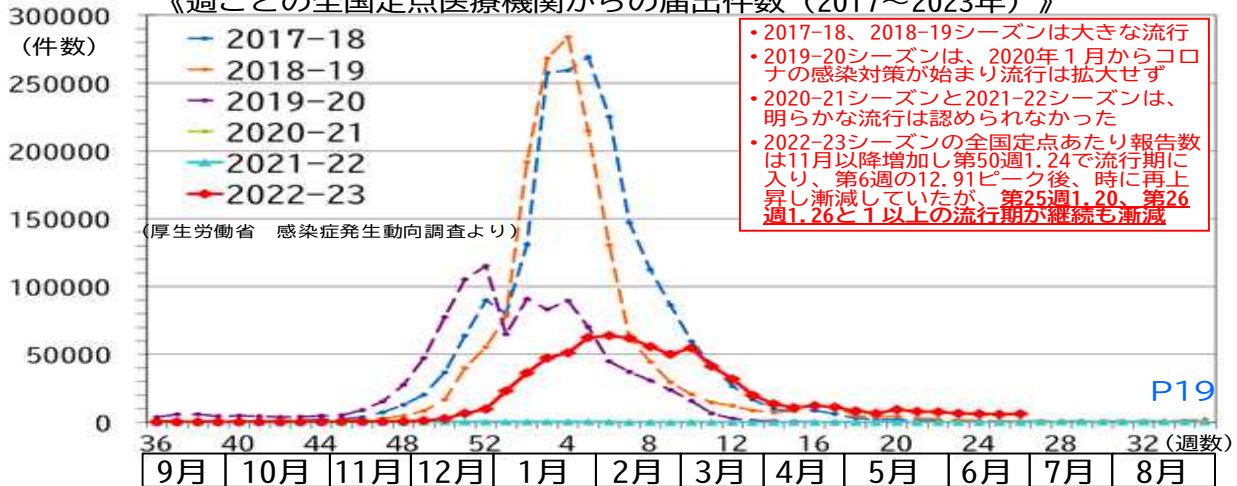


**前回、例年並の流行が見られた静岡県の2018-19シーズンの
インフルエンザ年齢別の累積報告数・割合 (政令市含む全県)**



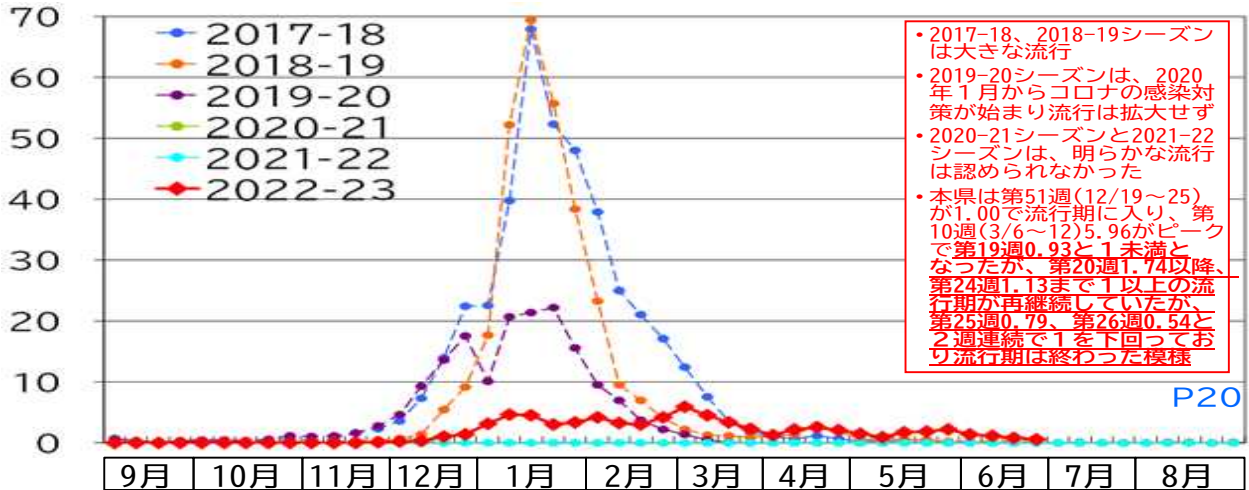
全国 今季のインフルエンザ流行状況 (6/26~7/2 第26週時点)

《週ごとの全国定点医療機関からの届出件数 (2017~2023年)》



- 2017-18、2018-19シーズンは大きな流行
- 2019-20シーズンは、2020年1月からコロナの感染対策が始まり流行は拡大せず
- 2020-21シーズンと2021-22シーズンは、明らかな流行は認められなかった
- 2022-23シーズンの全国定点あたり報告数は11月以降増加し第50週1.24で流行期に入り、第6週の12.91ピーク後、時に再上昇し漸減していたが、第25週1.20、第26週1.26と1以上の流行期が継続も漸減

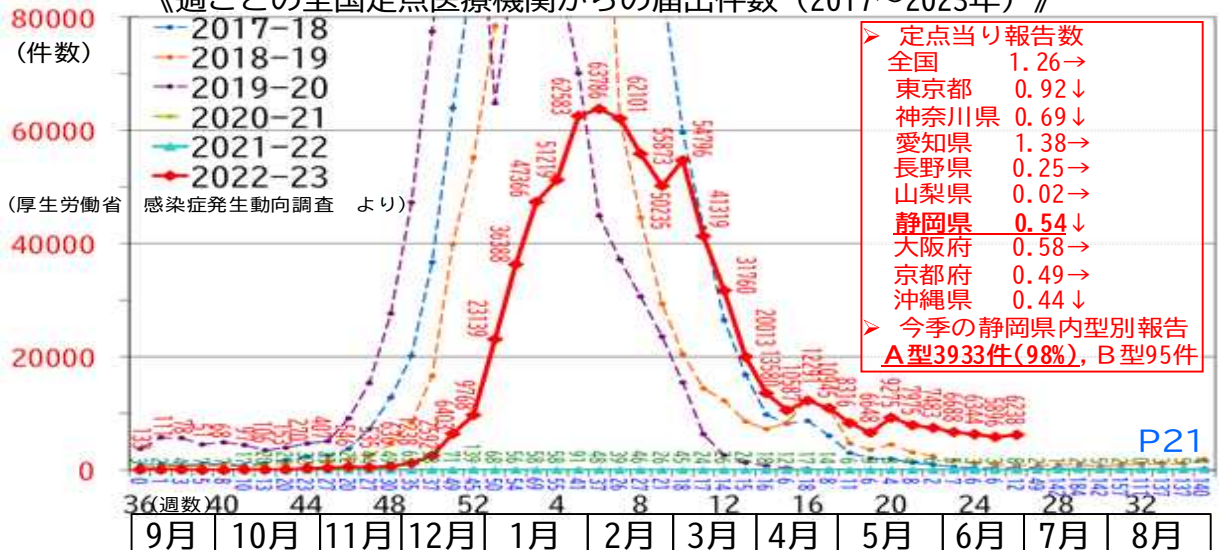
静岡県 インフルエンザ 定点医療機関あたりの報告数 (2017-18~22-23)



- 2017-18、2018-19シーズンは大きな流行
- 2019-20シーズンは、2020年1月からコロナの感染対策が始まり流行は拡大せず
- 2020-21シーズンと2021-22シーズンは、明らかな流行は認められなかった
- 本県は第51週(12/19~25)が1.00で流行期に入り、第10週(3/6~12)5.96がピークで第19週0.93と1未満となったが、第20週1.74以降、第24週1.13まで1以上の流行期が再継続していたが、第25週0.79、第26週0.54と2週連続で1を下回っており流行期は終わった模様

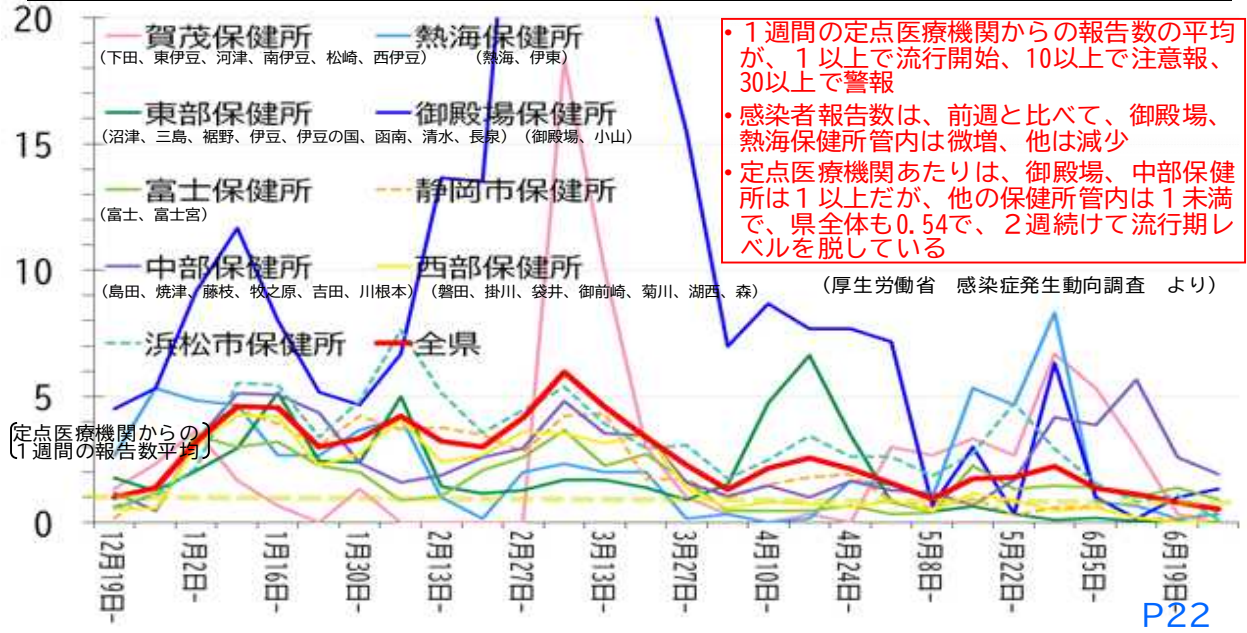
全国 今季のインフルエンザ流行状況 (6/26~7/2 第26週時点) 【拡大】

《週ごとの全国定点医療機関からの届出件数 (2017~2023年)》

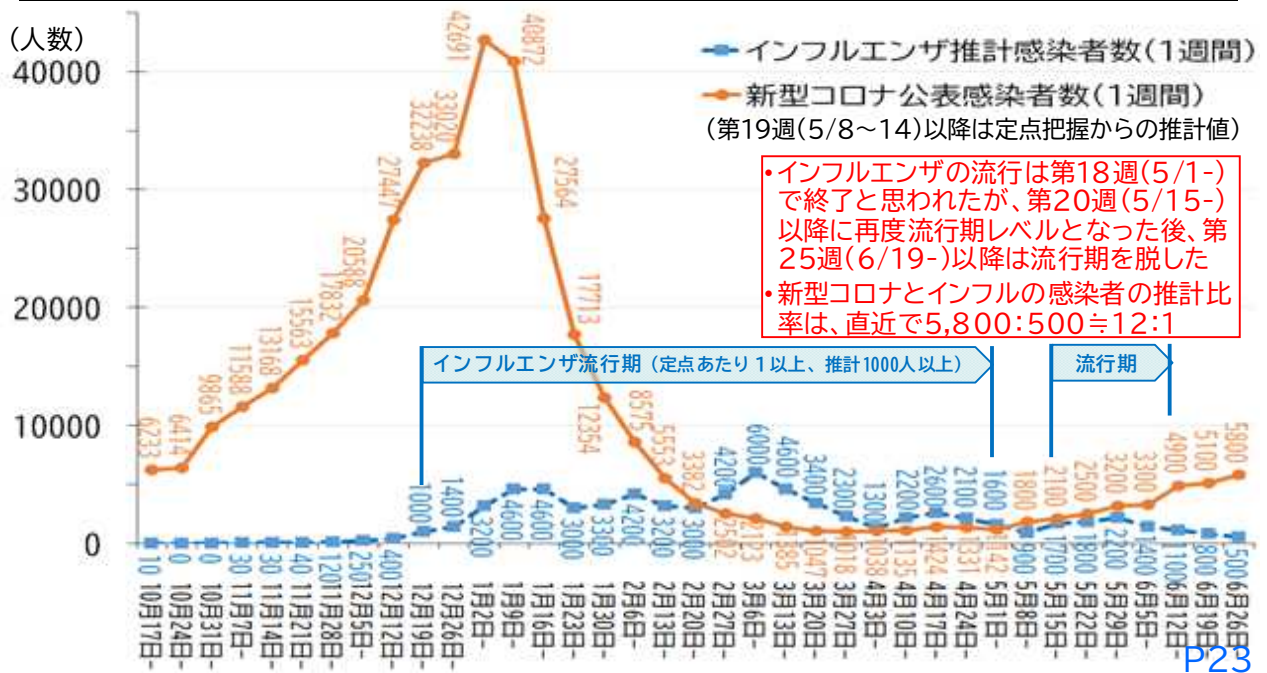


- ▶ 定点当たり報告数
- 全国 1.26↓
- 東京都 0.92↓
- 神奈川県 0.69↓
- 愛知県 1.38→
- 長野県 0.25→
- 山梨県 0.02→
- 静岡県 0.54↓
- 大阪府 0.58→
- 京都府 0.49→
- 沖縄県 0.44↓
- ▶ 今季の静岡県内型別報告
- A型3933件(98%), B型95件

静岡県の保健所管内別 1週間のインフルエンザ感染者 定点医療機関からの報告数 (2022.11/7~2023.7/2)



静岡県 新型コロナとインフルエンザの同時流行の状況 (2022.10/17~2023.7/2)



提供日 2023/07/31
タイトル マダニに咬まれないよう注意しましょう！（「日本紅斑熱」患者が確認されました）
担当 健康福祉部 感染症対策局感染症対策課
連絡先 ふじのくに感染症管理センター
TEL 055-928-7272



—危機管理情報—
マダニに咬まれないように注意しましょう！
～今年県内4例目の「日本紅斑熱」患者が
確認されました～



1 要旨

中部保健所管内在住の30歳代男性が、7月22日から発熱、発疹、頭痛等の症状を呈し、7月26日に中部保健所管内の医療機関を受診し、入院しました。左足首にマダニの刺し口が認められ、紅斑が認められたことから、ダニが媒介する感染症の疑いがあるため、痂皮を検体として県環境衛生科学研究所で検査を行ったところ、日本紅斑熱の病原体遺伝子が検出され、28日に日本紅斑熱であることが確認されました。

患者はマダニに咬まれた自覚はありませんでしたが、診察において左足首にマダニの刺し口が認められたこと、また林地の散策をしていたことから、日本紅斑熱の病原体を保有するマダニに咬まれたことにより感染したと推定されています。

なお、患者はすでに退院し、快方に向かっています。

県内で日本紅斑熱の患者が確認されたのは、今年に入ってから4例目です。春から秋にかけてマダニの活動が盛んになる時期です。レジャーや農作業などで野山や草むら、畑などに入るとマダニに咬まれることがあります。**マダニが病原体を保有していると、咬まれた人が「日本紅斑熱」、「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」などの感染症にかかる危険性があります。**これらの疾患にかからないようにするために、野外でのダニ対策が重要です。

特に、日本紅斑熱患者の発生が多い5月頃から11月頃までの時期は、野山や畑等の屋外でマダニに咬まれないよう十分注意しましょう。また、屋外を出入りする犬や猫等に付着したマダニに屋内で咬まれないよう注意しましょう。

※ 報道機関各位におかれましては、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることのないよう、格別の御配慮をお願いします。

2 マダニが媒介する主な感染症

(1) 日本紅斑熱

・日本紅斑熱リケッチアという病原体を保有するマダニに咬まれることで感染し、**人から人へ感染して広がるものではありません。**

・マダニに咬まれてから、2日から8日の潜伏期間の後、高熱、発疹が現れ、重症化した

場合には、死に至ることもあります。

・県内では、過去5年で、年間3～10例、今回報告例を含め38例（本年4例）が発生しており、そのうち死亡例が2例報告されています。

(2) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

・感染経路は、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることが中心ですが、血液等の患者体液との接触や、マダニに咬まれSFTSウイルスに感染している犬や猫の体液から感染することも報告されています。

・マダニに咬まれてから、6日から14日の潜伏期間の後、発熱、消化器症状などが現れ、重症化した場合には死に至ることもあります。

・県内では令和3年以降、年間4～6例、計13例発生しており、死亡例はありません。本年は、これまでに3例が報告されています。

3 県民の皆様へ

(1) マダニに咬まれないようにしましょう！

- ・特にマダニの活動が盛んな、春から秋にかけて注意が必要です。
- ・野山や草むら、畑などに入る場合は、耳を覆う帽子、首に巻くタオル、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくしてください。
- ・マダニ用に市販されている忌避剤はありますが、マダニの付着を完全に防ぐことはできませんので、他の防護手段と組み合わせて対策を取りましょう。

(2) 屋外活動後は、マダニに咬まれていないか確認しましょう！

- ・マダニに咬まれた場合は、数日間、体調の変化に注意しましょう。
- ・発熱・発疹の症状が見られたら、早めに医療機関を受診し、マダニに咬まれた可能性があることを医師に伝えましょう。

(3) ペットに付着して、マダニが家の中に入ってくることもあります！

- ・飼育している犬や猫にもダニ駆除剤を使用しましょう。
- ・飼育している動物の健康状態の変化に注意し、動物が体調不良の際には、咬まれたりなめられたりしないようにして、動物病院を受診して下さい。

4 日本紅斑熱の最近の患者数（人） 令和5年は現時点の暫定値 （）死亡事例再掲

年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全国	305	318	421	487	460	179
静岡県	3	10(1)	8	8(1)	5	4

5 SFTSの最近の患者数（人） 令和5年は現時点の暫定値

年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全国	77	101	78	110	118	94
静岡県	0	0	0	4	6	3

提供日 2023/08/02
タイトル マダニに咬まれないよう注意しましょう！（「日本紅斑熱」患者が確認されました）
担当 健康福祉部 感染症対策局感染症対策課
連絡先 ふじのくに感染症管理センター
TEL 055-928-7272



—危機管理情報—
マダニに咬まれないように注意しましょう！
～今年県内5例目の「日本紅斑熱」患者が確認されました～

1 要旨

西部保健所管内在住の50歳代男性が、7月17日から発熱、発疹などの症状を呈し、7月22日に西部保健所管内の医療機関を受診し、7月26日に入院しました。紅斑が認められたことから、ダニが媒介する感染症の疑いがあるため、血液、皮膚を検体として県環境衛生科学研究所で検査を行ったところ、日本紅斑熱の病原体遺伝子が検出され、7月31日に日本紅斑熱であることが確認されました。

患者はマダニに咬まれた自覚はありませんでしたが、自宅の庭で作業をしていたことから、日本紅斑熱の病原体を保有するマダニに咬まれたことにより感染したと推定されます。なお、患者は現在も入院中ですが、快方に向かっています。

県内で日本紅斑熱の患者が確認されたのは、今年に入ってから5例目です。春から秋にかけてマダニの活動が盛んになる時期です。レジャーや農作業などで野山や草むら、畑などに入るとマダニに咬まれることがあります。**マダニが病原体を保有していると、咬まれた人が「日本紅斑熱」、「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」などの感染症にかかる危険性があります。**これらの疾患にかからないようにするために、野外でのダニ対策が重要です。

特に、日本紅斑熱患者の発生が多い5月頃から11月頃までの時期は、野山や畑等の屋外でマダニに咬まれないよう十分注意しましょう。また、屋外を出入りする犬や猫等に付着したマダニに屋内で咬まれないよう注意しましょう。

※ 報道機関各位におかれましては、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることのないよう、格別の御配慮をお願いします。

2 マダニが媒介する主な感染症

(1) 日本紅斑熱

- ・日本紅斑熱リケッチアという病原体を保有するマダニに咬まれることで感染し、**人から人へ感染して広がるものではありません。**
- ・マダニに咬まれてから、2日から8日の潜伏期間の後、高熱、発疹が現れ、重症化した場合には、死に至ることもあります。
- ・**県内では、過去5年で、年間3～10例、今回報告例を含め39例（本年5例）が発生しており、そのうち死亡例が2例報告されています。**

(2) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

・感染経路は、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることが中心ですが、血液等の患者体液との接触や、マダニに咬まれSFTSウイルスに感染している犬や猫の体液から感染することも報告されています。

・マダニに咬まれてから、6日から14日の潜伏期間の後、発熱、消化器症状などが現れ、重症化した場合には死に至ることもあります。

・県内では令和3年以降、年間4～6例、計13例発生しており、死亡例はありません。本年は、これまでに3例が報告されています。

3 県民の皆様へ

(1) マダニに咬まれないようにしましょう！

- ・特にマダニの活動が盛んな、春から秋にかけて注意が必要です。
- ・野山や草むら、畑などに入る場合は、耳を覆う帽子、首に巻くタオル、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくしてください。
- ・マダニ用に市販されている忌避剤はありますが、マダニの付着を完全に防ぐことはできませんので、他の防護手段と組み合わせて対策を取りましょう。

(2) 屋外活動後は、マダニに咬まれていないか確認しましょう！

- ・マダニに咬まれた場合は、数日間、体調の変化に注意しましょう。
- ・発熱・発疹の症状が見られたら、早めに医療機関を受診し、マダニに咬まれた可能性があることを医師に伝えましょう。

(3) ペットに付着して、マダニが家の中に入ってくることもあります！

- ・飼育している犬や猫にもダニ駆除剤を使用しましょう。
- ・飼育している動物の健康状態の変化に注意し、動物が体調不良の際には、咬まれたりなめられたりしないようにして、動物病院を受診して下さい。

4 日本紅斑熱の最近の患者数 (人) 令和5年は現時点の暫定値 () 死亡事例再掲

年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全国	305	318	421	487	460	185
静岡県	3	10(1)	8	8(1)	5	5

5 SFTSの最近の患者数 (人) 令和5年は現時点の暫定値

年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全国	77	101	78	110	118	96
静岡県	0	0	0	4	6	3

新型コロナウイルス感染症について

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の位置付けが「5類感染症」となりました。

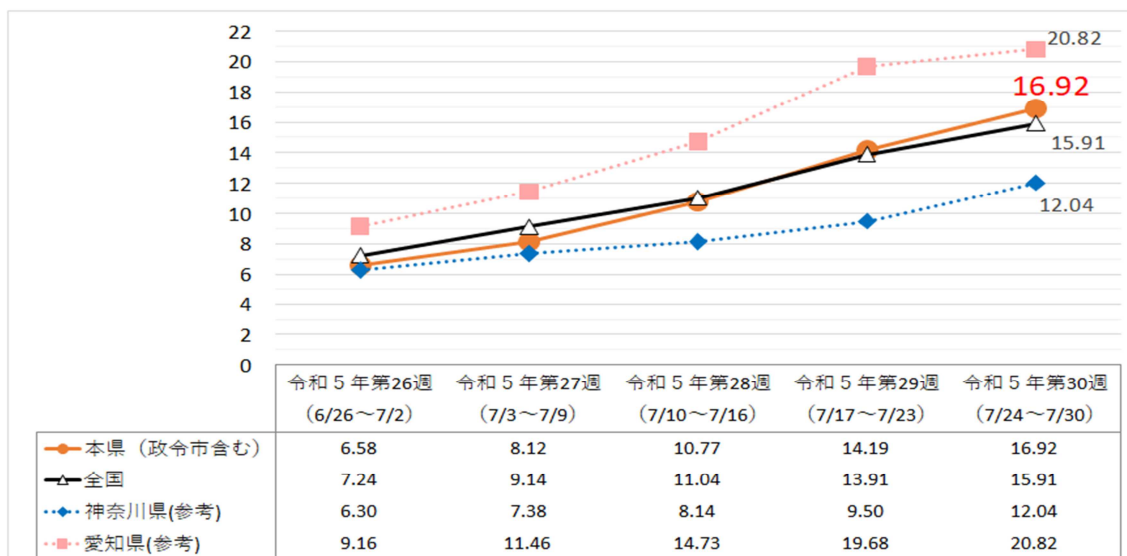
このため、感染状況の把握は、全数を毎日把握する方式ではなく、国が定める基準に従って指定された医療機関（定点医療機関）での患者数を1週間分まとめて把握する方式に変更されています。（季節性インフルエンザと同様の把握方法）

令和5年第30週（令和5年7月24日～7月30日）

★令和5年第30週の感染状況について

- ・県全体の定点医療機関当たり患者数は **16.92 人/週** で、前週(14.19 人/週) に比べて増加しており、**感染拡大警報レベル** となっています。
- ・この1週間の定点医療機関から報告された感染者数は 2,352 人で、前週(1,973 人) に比べて 1.19 倍です。
- ・この1週間の全感染者数は、約 14,900 人(1日平均約 2,100 人) と推計されます。
- ・東・中・西の地域別では、**県東部地域が感染拡大警報レベル**、県中部、県西部地域が感染拡大注意報レベルとなっています。
保健所管内別では、**熱海、御殿場、富士保健所管内が感染拡大警報レベル**、賀茂、東部、静岡市、中部、西部、浜松市保健所管内が感染拡大注意報レベルとなっています。

1 定点医療機関当たり患者数（単位：人/週）



全国及び隣接する神奈川県、愛知県も表示します。

2 定点医療機関当たり患者数【保健所別】＜令和5年第30週＞

保健所ごとに定点医療機関1か所当たりの人口や年齢構成などが異なるため、保健所間で数値の単純比較はできません。

保健所名	各保健所の 管轄市町名	定点医療 機関数 (A)	定点医療機関 の感染者数 (B)	定点医療機関 当たりの感染者数 (B/A)	県独自の 注意報 レベル※	県独自の 警報 レベル※	
県東部地域	賀茂	下田市、東伊豆町、河津町、 南伊豆町、松崎町、西伊豆町	3	74	24.67	13以上	26以上
	熱海	熱海市、伊東市	6	149	24.83	9以上	18以上
	東部	沼津市、三島市、裾野市、 伊豆市、伊豆の国市、函南町、 清水町、長泉町	20	274	13.70	8以上	16以上
	御殿場	御殿場市、小山町	6	273	45.50	17以上	34以上
	富士	富士市、富士宮市	15	354	23.60	11以上	22以上
県東部地域		50	1124	22.48	10以上	20以上	
県中部地域	静岡市	静岡市	25	284	11.36	6以上	12以上
	中部	島田市、焼津市、藤枝市、 牧之原市、吉田町、川根本町	17	235	13.82	8以上	16以上
	県中部地域		42	519	12.36	7以上	14以上
県西部地域	西部	磐田市、掛川市、袋井市、 御前崎市、菊川市、湖西市、森町	19	357	18.79	10以上	20以上
	浜松市	浜松市	28	352	12.57	7以上	14以上
	県西部地域		47	709	15.09	8以上	16以上
県全体		139	2352	16.92	8以上	16以上	

※県独自の注意報レベル：令和4年10月以降の第8波の新規感染者数の推移から、1週間当たりの新規感染者数が人口10万人当たり200人以上となった水準を、暫定的に県独自の注意報レベルとして設定しています。（例えば、賀茂保健所の定点医療機関当たり患者数は13以上で注意報レベルということになります）

※県独自の警報レベル：1週間当たりの新規感染者数が人口10万人当たり400人以上となった水準を、暫定的に県独自の警報レベルとして設定しています。

3 定点医療機関当たり患者数【保健所別】＜5週間の推移＞

保健所名	第26週 (6/26~7/2)	第27週 (7/3~7/9)	第28週 (7/10~7/16)	第29週 (7/17~7/23)	第30週 (7/24~7/30)	前週比推移	
県東部地域	賀茂	10.33	18.00	5.67	16.00	24.67	↗ ↘ ↗ ↗
	熱海	11.17	11.50	14.67	17.33	24.83	↗ ↗ ↗ ↗
	東部	6.85	7.80	10.10	11.60	13.70	↗ ↗ ↗ ↗
	御殿場	22.67	24.33	33.67	30.67	45.50	↗ ↗ ↘ ↗
	富士	10.27	9.93	15.00	16.93	23.60	↘ ↗ ↗ ↗
県東部地域		10.50	11.48	14.68	16.44	22.48	↗ ↗ ↗ ↗
県中部地域	静岡市	4.88	7.08	8.48	12.32	11.36	↗ ↗ ↗ ↘
	中部	4.71	7.88	11.35	16.06	13.82	↗ ↗ ↗ ↘
	県中部地域		4.81	7.40	9.64	13.83	12.36
県西部地域	西部	5.11	6.95	10.95	15.47	18.79	↗ ↗ ↗ ↗
	浜松市	3.25	3.96	5.36	9.86	12.57	↗ ↗ ↗ ↗
	県西部地域		4.00	5.17	7.62	12.13	15.09
県全体		6.58	8.12	10.77	14.19	16.92	↗ ↗ ↗ ↗

4 感染拡大注意報・警報

注意報レベル：感染者が急増するおそれがある状況

警報レベル：感染者の増加が続き、医療のひっ迫のおそれがある状況

(1) 県全体の状況

県全体	
8	16
16.92	
警報	

【凡例】

保健所名	
保健所管轄市町名	
注意報の 基準値	警報の 基準値
定点当たり患者数	
現在の状況	

(2) 地域別の状況

県東部地域		県中部地域		県西部地域	
10	20	7	14	8	16
22.48		12.36		15.09	
警報		注意報		注意報	

(3) 保健所別の状況

賀茂保健所	熱海保健所	東部保健所	御殿場保健所	富士保健所
下田市, 東伊豆町, 河津町, 南伊豆町, 松崎町, 西伊豆町	熱海市, 伊東市	沼津市, 三島市, 裾野市, 伊豆市, 伊豆の国市, 函南町, 清水町, 長泉町	御殿場市, 小山町	富士市, 富士宮市
13	9	8	17	11
26	18	16	34	22
24.67	24.83	13.70	45.50	23.60
注意報	警報	注意報	警報	警報

静岡市保健所	中部保健所	西部保健所	浜松市保健所
静岡市	島田市, 焼津市, 藤枝市, 牧之原市, 吉田町, 川根本町	磐田市, 掛川市, 袋井市, 御前崎市, 菊川市, 湖西市, 森町	浜松市
6	8	10	7
12	16	20	14
11.36	13.82	18.79	12.57
注意報	注意報	注意報	注意報

<県民の皆様へ>

改めて、以下の点に御協力をお願いします。

- ① 医療機関や高齢者施設の受診や訪問時は、できるだけマスクを着用
- ② 体調に少しでも違和感（特にのど・鼻）があれば、マスクを着用
- ③ 症状（咳・熱・のど痛）が出た時は、学校や仕事を休んで、帰省・旅行も延期し療養を
- ④ 咳・熱・のど痛などの症状が軽く持病のない若い方は、休日夜間の救急外来受診は控えて平日昼間に受診するか、市販薬で自宅療養を
- ⑤ 人が集まる所では、十分な換気・できるだけマスク着用・手洗い励行
- ⑥ 高齢者や持病のある方は、ワクチン接種を検討

なお、熱中症予防の観点から、近くに人がいないときや屋外では、マスクは不要です。

<事業者・学校の皆様へ>

症状が軽く持病もないため市販薬等で対応可能な方が、事業者等から検査結果や診断書を求められたとの理由で医療機関を受診することが外来医療のひっ迫の一因となっています。

外来医療のひっ迫を避けるため、感染まん延時は手続上必要な場合などを除いて、検査や診断書取得を目的とした受診を従事者等に求めないようお願いします。

5 感染者全数の推計値

保健所名		定点医療機関の 感染者数 (A)	管内の 定点割合 (B)※1	管内の感染者 全数の推計値 (A/B) ※2
	賀茂	74	0.335	-
	熱海	149	0.268	-
	東部	274	0.150	-
	御殿場	273	0.505	-
	富士	354	0.215	-
県東部地域		1124	0.221	5086
	静岡市	284	0.109	-
	中部	235	0.154	-
	県中部地域	519	0.125	4152
	西部	357	0.166	-
	浜松市	352	0.117	-
	県西部地域	709	0.134	5291
県全体		2352	0.158	14886

※1 定点割合

令和4年10月3日から令和5年5月7日までに定点医療機関から報告のあった感染者数を、この期間の全感染者数で割った値。例えば県全体では、この期間の定点医療機関からの報告数は、全感染者数の15.8% (0.158) でした。

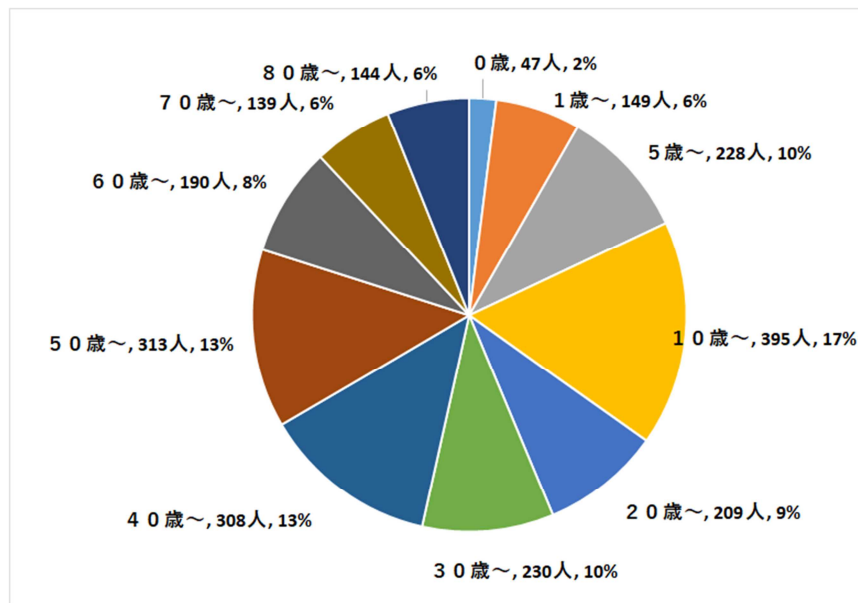
※2 推計値の算出方法

感染者全数の推計値は、定点医療機関の感染者数を定点割合で除して算出しており (A÷B)、県全体の感染者数の全数は、 $2352 \div 0.158 = 14886$ 人と推計されます。各地域ごとに異なる定点割合で推計値を算出しているため、県東部地域、県中部地域、県西部地域の推計値の総和は必ずしも県全体の推計値と同じ値にはなりません。なお、人口が少ない地域は定点医療機関が少なく、算出される推計値は統計的に信頼性が低くなるため、各保健所ごとの推計値は示していません。

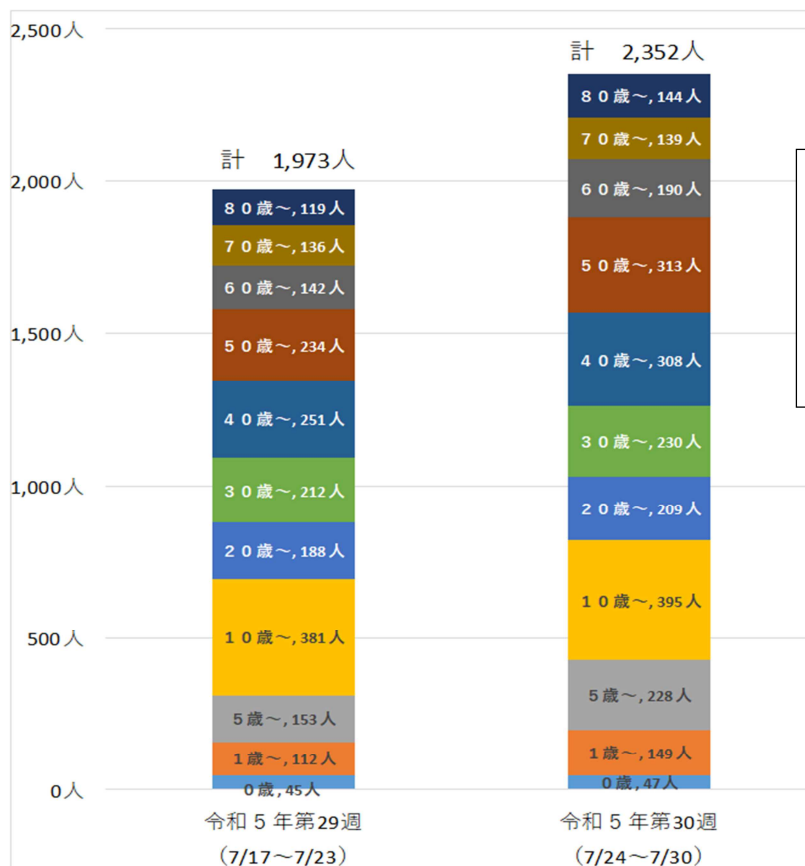
6 定点医療機関の年齢階級別患者数

0歳	1歳～	5歳～	10歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～
47人	149人	228人	395人	209人	230人	308人	313人

60歳～	70歳～	80歳～	不明	合計
190人	139人	144人	0人	2,352人



70歳以上の割合は12%です。前週と比較して年代の比率に大きな変化はありません。



70歳以上の人数は、今週は283人前週は255人です。

7 令和5年5月8日以降（令和5年春開始接種） 高齢者（65歳以上）の3～6回目接種の実績

集計期間	静岡県			(参考)全国
	接種者数	接種者数累計	接種率	接種率
令和5年第26週 (6/26～7/2)	47,643	459,088	41.65%	42.87%
令和5年第27週 (7/3～7/9)	37,215	496,303	45.02%	46.28%
令和5年第28週 (7/10～7/16)	23,934	520,237	47.19%	48.90%
令和5年第29週 (7/17～7/23)	17,742	537,979	48.80%	50.66%
令和5年第30週 (7/24～7/30)	18,015	555,994	50.44%	52.42%

接種対象者のうち、高齢者以外の基礎疾患のある者、医療従事者及び高齢者施設等従事者は、上表には含まれません。

令和5年春開始接種の概要

○接種時期 令和5年5月8日開始

○接種対象者 2回以上の接種を完了し、以下に該当する者

- ・高齢者(65歳以上)及び基礎疾患のある者（接種の努力義務あり）
- ・医療従事者及び高齢者施設等従事者（接種の努力義務なし）

○使用ワクチン 以下のいずれかを1回のみ接種可

- ・オミクロン株対応2価ワクチン（ファイザー社及びモデルナ社） 前回接種から3か月以上経過
- ・武田社ワクチン（ノババックス） 前回接種から6か月以上経過

変異株に関する項目については、4月3日（月）分から当面の間、2週間ごとに集計しています。
（今回の公表はありません）